25
916

武雄案内 遊覽之夫

武雄

開通漢字

襄二
○
有栖川若宮殿下數日間御滯留ノ光榮ヲ辱フシ
芳川内務大臣堀田逓信大臣陸海軍將官
其他朝野貴顯ノ御投宿ヲ辱フセリ
佐賀縣産蘭等當選
日本同盟旅館
東京屋
武雄温泉場
電話二〇番

25-916

武雄遊覽之友目次

◉武雄は何故に名高きか……一
◉武雄温泉……二
○浴客の有樣はどんな風になつて居るか……二
○不潔なことはないだらうか……四
○温泉には夜中もはいることが出來るか……四
○温泉の湧出量はどれ位だらうか……四
○温泉の成分はどんなになつて居るか……四
○温泉の醫治効能……六
○温泉療法（入浴者心得）……七
○入浴の時季　○入浴時日の長短　○入浴の度數　○一浴の時間
○浴後はどんな風にする方がよいだろうか……八
○一年中に入浴するものの人數はどれ位だらうか……九

明治
43. 4. 23
内交

◉温泉の由來……九
○豐太閤温泉の定書……一二
○貴顯御入浴の年月日……一四
◉市中の散歩……一五
○温泉通り……一五
○櫻山公園……一五
○蓬萊館……二二
○柄崎神社……二三
○淀姫神社……二三
○白龍峰に登る道……二三
○白龍峰頭の眺望……二三
○武雄町……二四
○娯樂場……劇場……二五

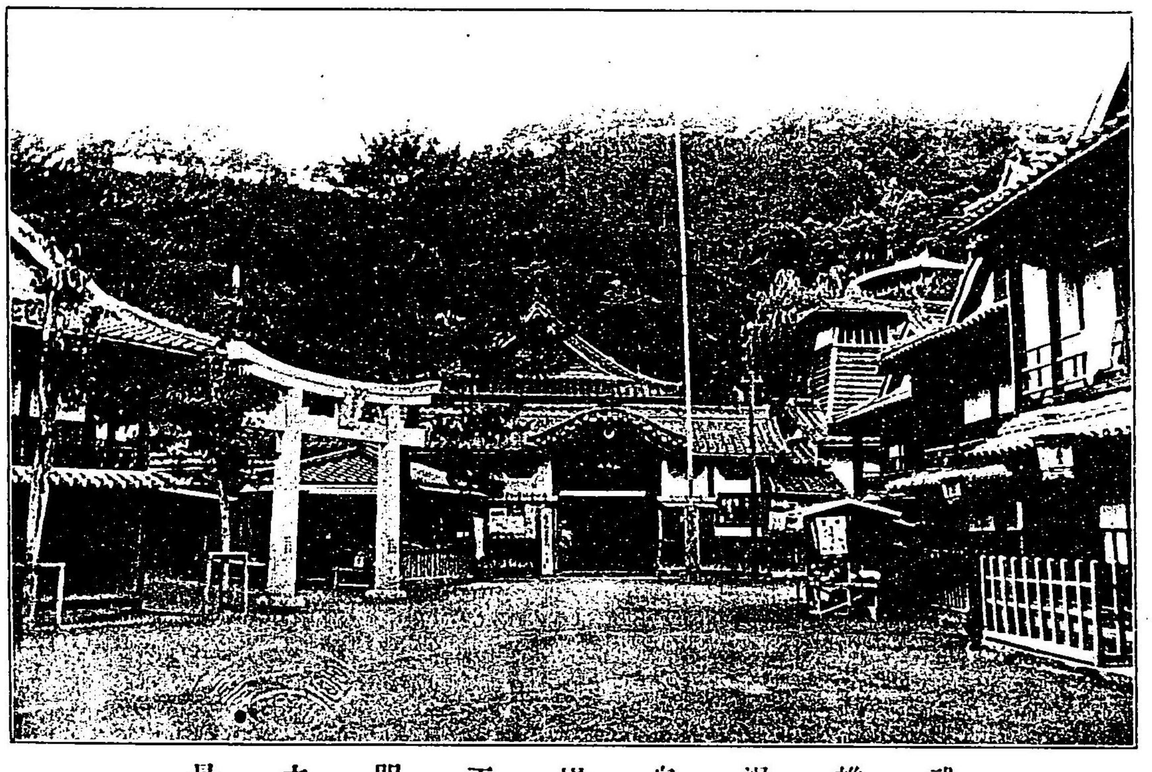
○蓬萊町……二六
◉名所古蹟……二六
○武雄神社……二六
○八壘敷の大楠……二七
○御船山……（附鍋島家の歴史）……二八
○萩の尾御茶屋……三一
○函の水養魚地……三二
○蓬萊山廣福寺……三二
○普門山圓應寺……三四
○柏媛の墓陵……三五
○西福寺……三五
○圓滿寺……三五
○正法寺……三六

○身教館……三六
△清水龍門……三七
△立野元定……三七
◉武雄附近の名勝古蹟……三八
○溝の上鑛泉(池内の堤)……三八
○潮見神社……三八
○焼米の池……四〇
○北方附近の炭坑……四一
○杉岳山大聖寺……四一
○和泉式部の出生地……四二
○杵島山……四四
○水堂觀音……四六
○黒髪山……四七

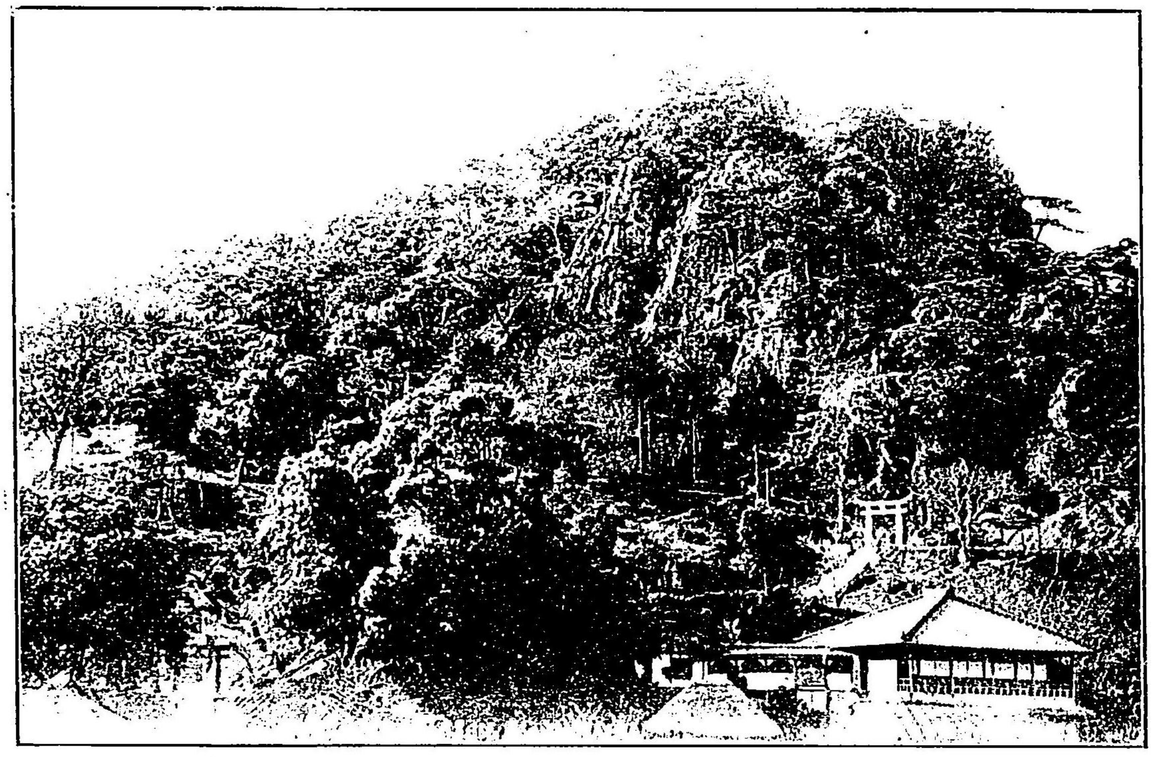
○黒髪山大智院……四七
○黒髪神社……四八
○龍門……四八
◉陶磁器製造場……四九
△上野……四九
△志田西山……四九
△有田……五〇
○塩田公園……五〇
○祐徳稲荷神社……五一
○吉浦神社……五二
○松蔭神社……五三
◉武雄より各地に至る道程及其他の名勝……五四
○鐵道によるもの……五四

○人力によるもの……五六
◎馬鐵停留所と其名勝……五六
◎武雄町内の諸官衙學校會社の所在……五八

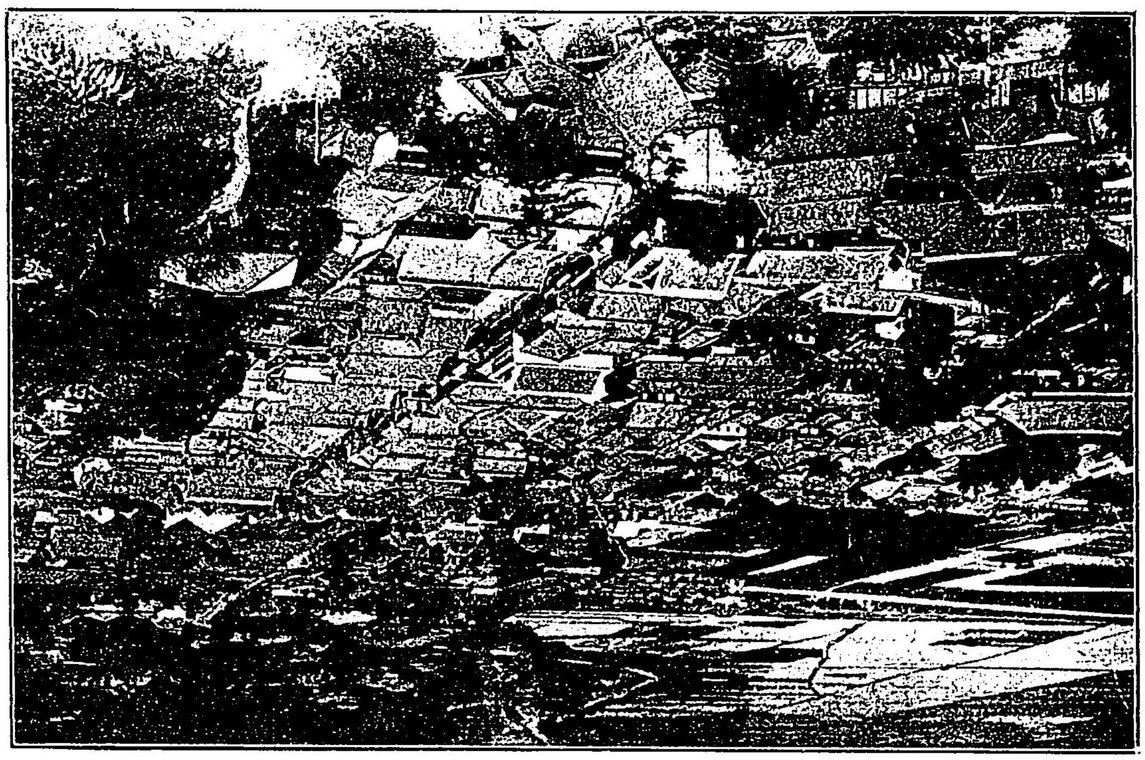
目次畢



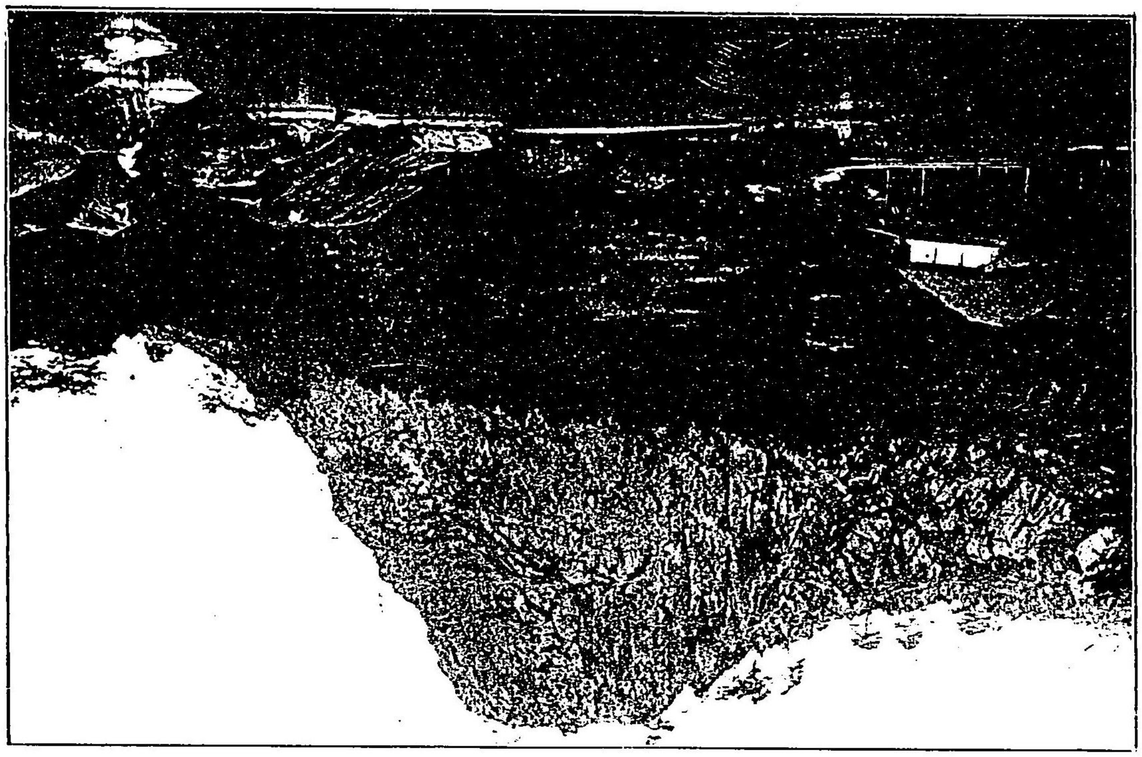
武雄温泉場正門之景



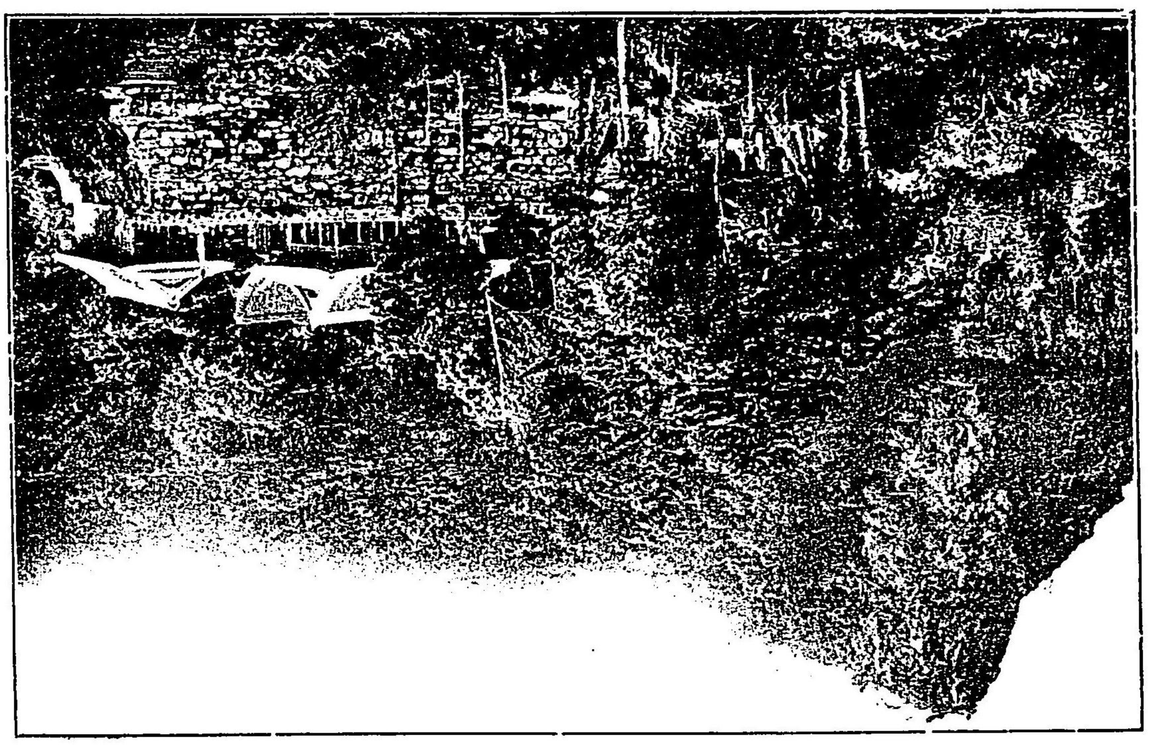
武雄遂萊山之景



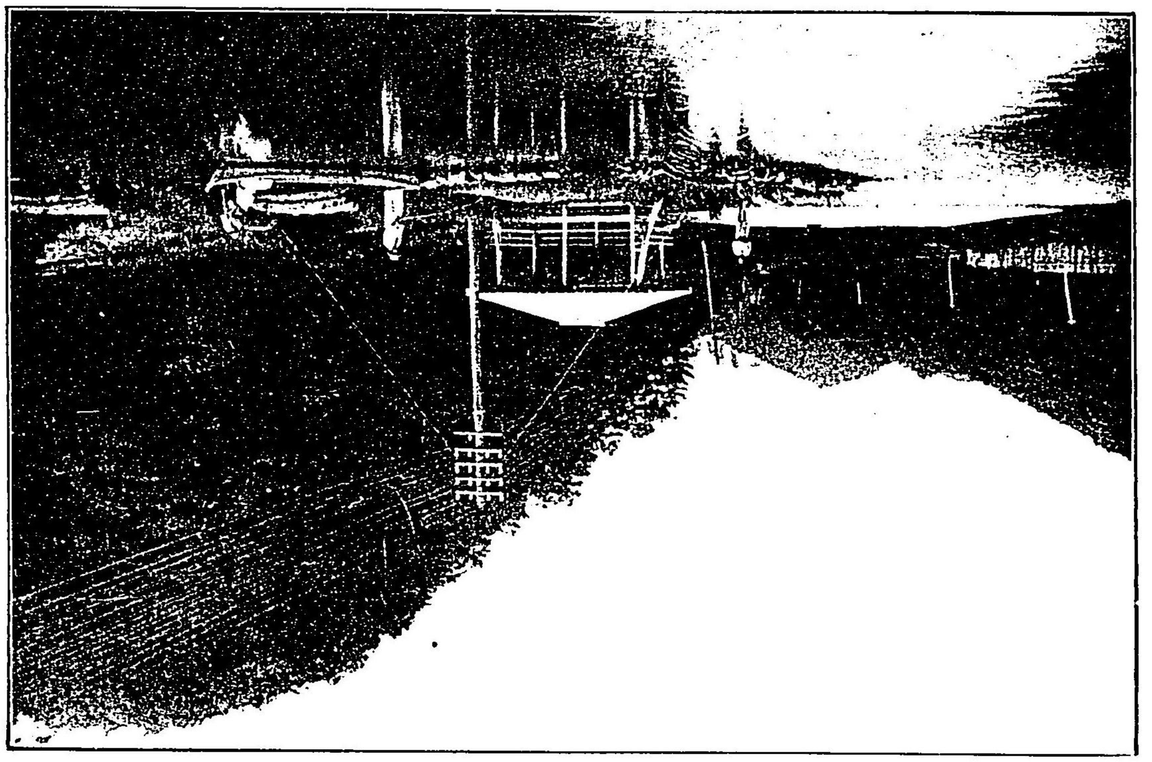
黑　色　叫　雄　式



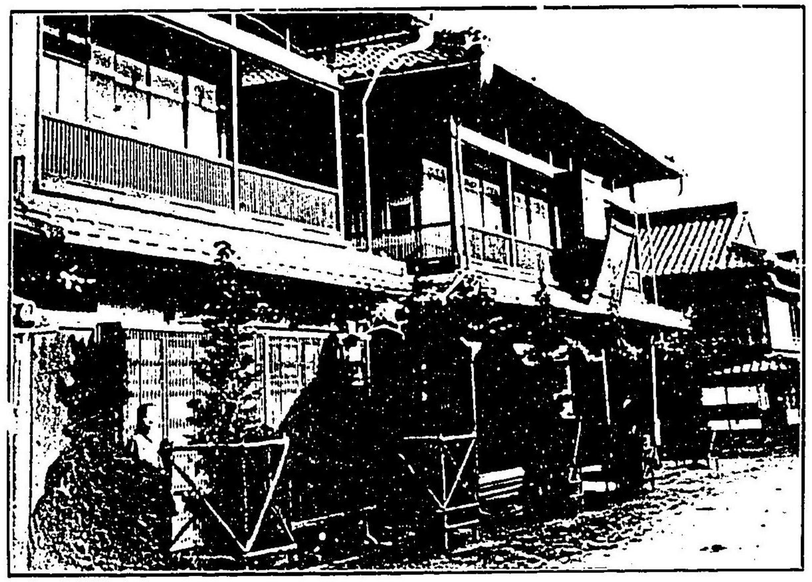
園　公　尼　野　狩　町　雄　武



是　今　画　維　式



園　公　水　コ　ン　雄　氏



KADOMASU HOTEL

日本同盟旅館

一等旅館 かどます

武雄温泉ニ接近シ九州有數ノ旅舍ニシテ室内清潔設備完全四季眺望ニ適シ待遇ニ至ツテハ世既ニ定評アル所業務誠實ニ營業仕候

館主 田中增太郎

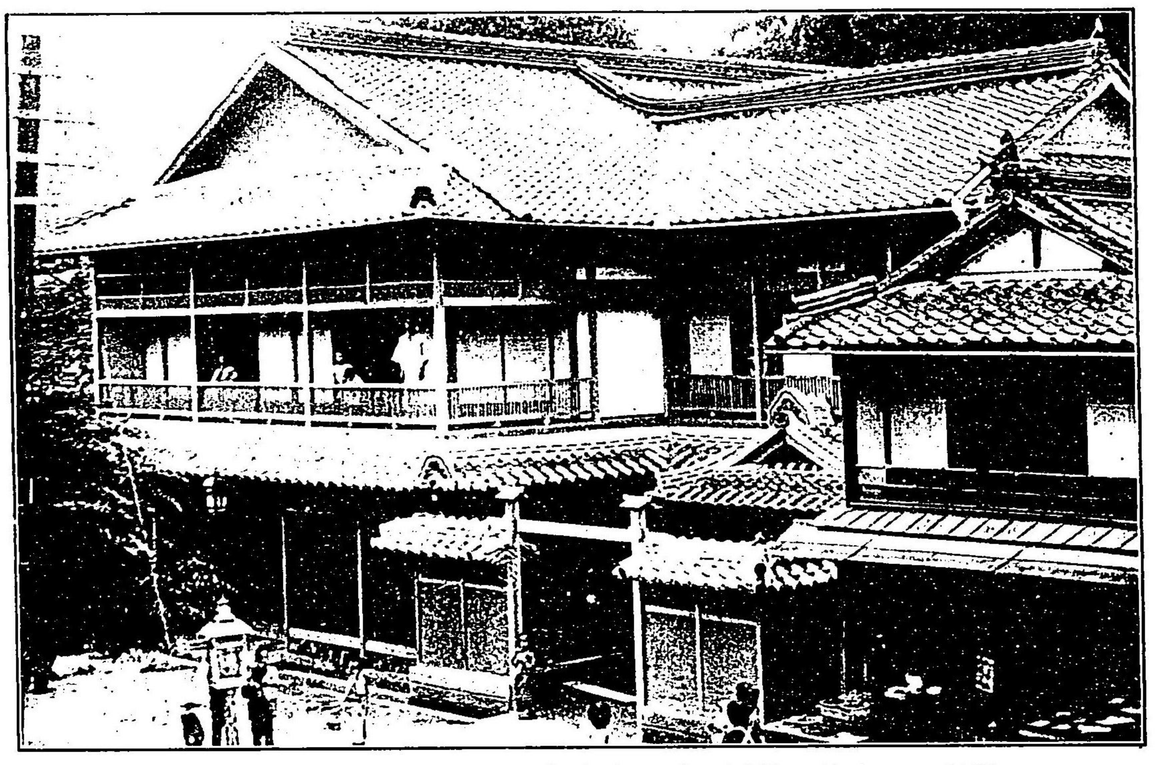
特電話三番

電報（マス）

旅壹館等

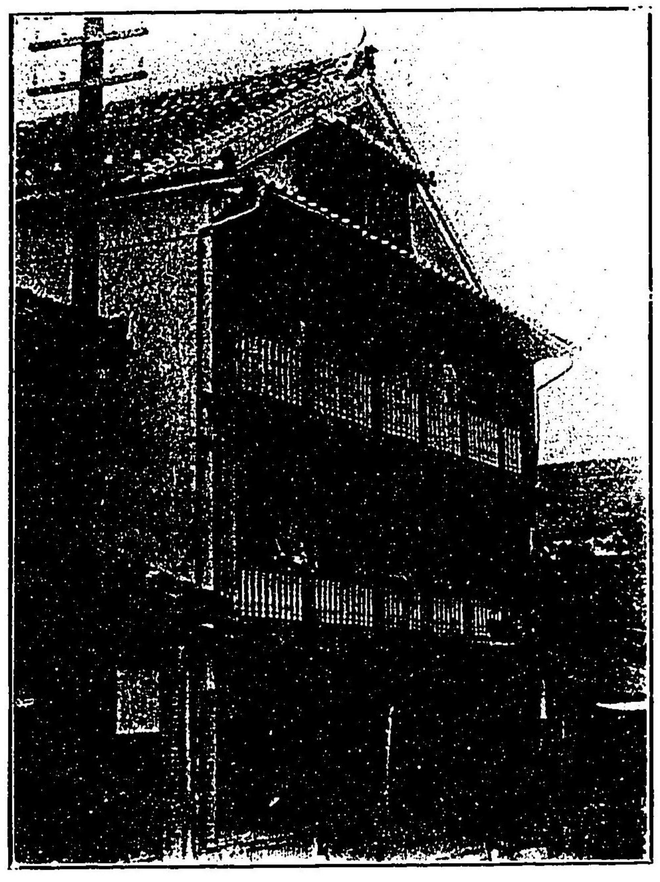
春慶屋

電話二十八番



弊館ハ温泉場ニ接近シ殊ニ裏座敷ハ土地高燥空氣清爽ニシテ
四季眺望ニ富ミ避暑ニ適ス

The Takewo hot-spring, The First-rate Hotel,
Nakamasu.



館主田中勝三郎
電話七番

武雄温泉場
壹等旅館
中桝

優等日本酒

醸造元

佐賀縣武雄町

本山佐一

大阪振替貯金貳四四八番

電話八番

緒言

武陵の地、温泉あり。山は愛すべく、花は賞すべし。春夏秋冬來り遊ぶもの幾百萬なるを知らず。また盛ならずや。

然るに、此の地に遊ぶものゝ爲に、或は鄕土の歷史を談り、或は探勝の栞となり、或は案内者となるべき一の書册なきは、人をして只に落膽せしむるのみならず、此の地の爲大に遺憾とするところなれば、本書を草して世に公にする所以なり。多端の身、小閑の裡、倉卒の間筆を執る。爲に大に行文の流暢を缺ぐべしと雖、つゞめて平易ならんことを期しぬ。記するところの

古事、舊傳は其出處を明にし、元形を失はしめず、敢て私見を加へざりき。これ議論は、本書を成す主旨にあらざればなり。

項者京都帝國大學教授文學博士谷本富先生に指導を得、大に發明するところあり。即ち柄崎は塚崎を正當とする理由の明なるものあるが如き其一にして、他日また大に考証の實を擧げ、訂正增補のあらんことを期す。

明治四拾三年戊正月吉日

著者　毛利龍一識

武雄遊覽之友

毛利雲水生編

武雄は何故に名高きか

第一溫泉があるため。
第二山水の奇多きため。
第三娯樂の上から。

來り見よ、滴るやうに、青々と茂つた山が、三方を取り卷いて其絲の中より苦白き奇態な巖が、ところ得顏にあちらこちらに天を突くやうに、屹と峙つてゐて、見事、一幅の漢畫でも見るやうだ。

詩人淡窓は、歌つて耶馬溪に似たものだと稱揚した。其奇態な巖が二ケ所に目につく。其

北温泉の上に峙てるのを白龍峰、又は蓬萊山ともいひ、其南に峙てるのを城山、又は三船山ともいふ。武雄に來れるもの此山に登らないならば武雄の名ある所以は、到底解することは出來ぬ。いざまづ身体の塵埃と、疲れとを一洗し、それから、そろ〳〵登山でも試みやうではないか。

一帶肥山坦迤低。危峰忽見刺天臍。廣瀨淡窓
武陵驛路人知否。略似吾家耶馬溪。

武雄温泉

まづ一等にしやうか、特別上等にしやうか、

○浴舍の有樣はどんな風になつて居るか。

現時の浴舍は、明治八年當地に温泉組といふものを組織して、改築を加へたもので、竪十二間、横六間半總坪數七十八坪で、浴室は、七個と外に原湯一室都合八室であつたのを、年々歳々浴客がふへるので、明治十七年に、特別上等湯一室を增築し、三十九年には、又特別上等湯一室を增したので、浴室は都合拾室となつた。

特別上等湯は、大理石を以て之を壁み、貴顯紳士の用に供し、樓上休憩所の設けがあつて浴衣、手拭など備へ付け、茶菓などを供す。壹人壹回一時間借り切りとして、毎回浴湯は汲み換ふる樣になつて居る。其浴料は一人一回に付き金五拾錢だ、しかし、仲間の者數人あるときは、一人分は五拾錢で、他は一人毎に金二拾五錢と定め、次の上等湯は一人一回に付三十錢で數人仲間があれば一人十五錢で入られる。

他の浴場は通常の磨き石で壁み、男女を區分して、一等三錢、二等一錢である。

到武雄温泉　秋月種樹

神功皇后凱旋時。發見温泉稱柄崎。相傳、皇后到此地、捉御劍柄、發見温泉因有此名。
聖澤遠流幾千歳。窓前山看武雄姿。

○不潔なことはないだらうか。

決して不潔なことは、少しも無い。この通り二段に分けてはあるが、最下等を除く外は、原湯から、直に湯を配り合する樣になつてゐて、浮つて居る汚垢は、自然に流れ去る樣な仕掛をしてあるから、下等に至るまで清潔なものである。

○温泉には夜中もはいることが出來るか。

入浴の時限は。午前四時より午後十二時までで、其始め終りと正午には、鐘を以て知らせるのである。尤も晩のおしまいの鐘は浴客に不都合にならぬ樣に、前以て午后の十一時に豫報を鳴らし、十二時になつて閉鎖の鐘を鳴らす樣になつて居る。

夜間は電燈及瓦斯燈の設備が完全して浴客の便にしてある。

○温泉の湧出量はどれ位だらうか。

此温泉の晝夜の湧出量は、大凡八百四十餘石だ。だから一時間に凡そ三十五石の温泉が、岩の間から湧き出て居るのだ。

○温泉の成分はどんなになつてゐるか。

温度は常に一定して、攝氏の四十九度に止まつてゐる。そこで我邦の人の入浴には、最も適して居る。だから他所の温泉の樣に、水を混和して、泉質を稀薄にする樣なことは、無いのである。本縣衛生試驗所に於て、分析した結果によると、此温泉は炭酸泉に屬してゐるのだから、飲用にも浴用にも適するのである、其化學的反應は、微少のアルカリ性を呈し、之を煮沸すると、其反應の度を増すといふことだ。

攝氏寒暖計の十五度に於ける比重は、一、〇〇〇七〇四で、其中に含有する化學的成分は左の如くである。

一、	重炭酸那篤個謨	(重炭酸ソーダ)	〇、五〇一七七三
二、	格魯兒那篤個謨	(食　鹽)	〇、一一二八六〇
三、	格魯兒加個謨	(鹽化加里)	〇、〇八〇〇〇〇
四、	重炭酸加爾叉謨	(重炭酸石灰)	〇、〇七四六八二
五、	重炭酸麻屈涅叉謨	(重炭酸磐土)	〇、〇一六六六二
六、	硫酸那篤個謨	(硫酸ソーダ)	〇、〇〇五五三八

七、硅酸
八、硼酸
九、硫化水素

○、○三六七〇〇
痕跡
痕跡

☆ ☆ ☆ ☆ ☆

温泉で水浴の稽古つかまつり　逆浪
候で海水浴を思ひ立ち　雲水

○温泉の醫治効能。

一、消化器病一般、特に胃腹の慢性疾患、肝臓病、痔病、並に通常の便秘。
二、呼吸器病、殊に喉頭、咽頭、並びに氣管の慢性加答兒、及初期肺結核、肋膜炎等。
三、膀胱並に尿道の疾患、子宮諸病、月經不順等。
四、腺病、關節並に筋のルーマチス、諸關節の疼痛、外傷後の麻痺疾患、關節強直等。

五、神經性諸疾患、殊に神經衰張、神經痛、比斯的里等。
六、梅毒性の諸疾患、並に皮膚及び筋肉病一般。
七、勞働後の疲勞、旅の疲勞の如きは忽ち洗ひ落すか如し。

○温泉療法（入浴者心得）

抑も温泉療法は、ただ入浴の多少、又は入浴時間の長短とによるばかりでは、其効果は、さほどあるものでない。折角湯治をやつて見やうと覺悟して來た以上は、其本來の疾患に就きて、醫療を怠らぬばかりでなく、飲食、起臥、運動等すべて規律を守り、衛生に氣を附けねばならぬ。之は入浴者の第一に心得て置かねばならぬことだ。

寄題武雄温泉　鎌田醉石

武陵堂宇鎖二湯泉一。　神功遺跡今尚傳。
靈液春融珠井水。　温波日浴鑑池天。
金力曾擲敷二王澤一。　翠輦來遊感二昔年一。
吾亦時逢休沐日。　胸塵滌盡意陶然。

入浴の時季は、春夏秋冬何時でもよくないといふ事はない。然し一番適當な時節は、春と夏とで、冬季入浴は、風にあたらぬ樣に注意せねばならぬ。

入浴時日の長短は、疾病の種類によりて、一定せぬが、凡そ三週間を以て適當とする。

入浴の度數は、凡そ一日に二三回が適當で、老人とか小供とかは一日に一回位を適當とする。

一浴の時間は、十分より長くも一時間を超過してはならぬ。又食事の前後は、一時間を隔てゝ入浴する方がよろしい。

温泉の内用は、各自の病症と、其体質とによりて、其用量を一定することは出來ないが、最初は、少く飲用し、次第〳〵に、其量を增して五百グラム(約百五十匁)を超過してはよろしくない。

○浴後はどんなにする方がよいだろうか。

浴後は、長く冷風、寒氣にさらされない樣にし、少しばかりの酒類、又は咖琲、茶などを喫して、適度に散歩する方がよい。

銀行一般ノ業務
便利ニ取扱申候

佐賀縣武雄町

甘久共同株式會社

頭取　有田源一郎
取締役　松尾將行
仝　一瀨傳三郎
監査役　原京三
仝　岩瀨政太郎

銀行一般の事務精々御便利に
取扱可申候

佐賀縣武雄町

合名會社 兄弟銀行

電話十番

世運日ニ月ニ進歩シ各種ノ事業複雜トナリ利器ノ應用盛ナルニ從ヒ負傷者ノ增加スルハ數ノ免カレザル所ナランヤサレバ適當ノ療法ヲ施サスシテ醜キ形体ヲ遺シテ終生癈疾ニ陷ルモノアリ殊ニ痛風僂麻質斯等折角醫療ヲ加ヘタル効モナク不知不識ノ内ニ於テ手足ノ關節屈曲シ或ハ强直ヲナシ亦ハ各部ノ關節自然ノ脫舊ヲナシテ醜態實ニ見ル可カラザルガ如キ不具癈疾ニ化スルモノモ多カル可シ不肖醫科整骨術及僂麻質斯治療ヲ專門トスルコト茲ニ數十年其ノ間鋭意熟心ヲ以テ之等不孝ナル患者ヲ治療シ運動ノ不如意ヲ除去シ不具ノ程度ヲ輕減センコトヲ之レ勉ム今ヤ我ガ戰捷后國威發揚ト同時ニ平和的生産經營ト戰ハザル可カラザル我同胞特ニ前途多望ナル學生諸君若シ同病ニ腦サル、者アラバ陸續御幸臨天賦ノ機能及ヒ形体ヲ全ウセラレンコトヲ希フ

整骨醫　肥前國武雄宮野町　**島虎之助**

內外各國大博覽會進歩及有功
金牌數十個受領

御進物用トシテ高尚優美ナル

酒預リ切手發賣セリ

佐賀縣佐賀郡久保田村字治端
醸造元 梅乃窓本家 古賀文一郎
發賣元
佐賀縣杵島郡武雄町
和洋酒 洋食品 鑵詰類一式
窓の梅出張店 (電話番武)

私立
武雄療病院
院長醫學士 增田喜一

內科一般

小兒科

梅毒科

武雄町字十間堀副島醫院

得業士　副島七郎

○一年中に入浴するものゝ人數はどれ位だらふか。

かように武雄温泉は、諸病に効驗あるばかりでなく、自然の風光もよし、氣候の變化も少なく、心身の靜養に適し、交通も至つて便利であるから、浴客は非常に多く、毎年數百萬人以上だから、今迄の温泉場では、到底この多數の浴客を滿足させる事は出來ないから、湯泉組では、夙くより一大建築を思ひ立ちて居たが、其設計も粗ぼ、出來上つたから、實際工事に着手することも遠いことではあるまい。

温泉の由來

武雄温泉といふ名は、近世稱ふる名稱で、古來柄崎温泉とよび來つたのだ。其遂萊泉といふのは、此温泉の雅名である。

温泉發見の年月は、詳しくはわからないが、今より千二百年前聖武天皇の天平年間に出來た、肥前風土記といふ本の中の杵島郡の條に『郡西有二湯泉出之巖一岸峻極人跡罕及

也』とあるより考へると、既に時其分から湧き出て居つたといふことは明かなことだが、然し其時分は、今の武雄あたりは、海岸で、然も嶮しい巖だらけの地であつたらしい。そこでまだ人の入浴する樣な屋舍も無かつたに違いない。で何時頃から温泉場として、家でも出來たのか、その遐はとんとわからないのだ。蓋し應仁の乱後明應文龜の際此地しば〳〵兵燹に罹りたれば、舊記も爲に烏有に歸し、また吏蹟のよるべきなきに因るだらう。

口碑に傳ふる所を聞けば、此地山險しく、人も通ふ事の出來ない海岸であつた時分に、白鷺が毎日〳〵溪間に遊ぶのを見て、土人、米守と云ふものが、それを獲へんと思つて行つたところが、白鷺は驚いて南方の森に逃げ去つたが、其邊を流れて居た谷川の水が、どうも温かくあつた。怪しいこともあるものだと思つて、其川の流れに添ふて、上つて行くと湯氣が盛に立ち上つて温泉が巖の間から湧き出でゝ居た。それで後世此地を土人の名に採り、米守といひ、又白鷺を靈鳥なりとして、其鷺の止まりし森を鷺の森と稱へ、鷺明神を勸請して居る。今尙は松原町に小祠がある。之が温泉發見に對する一說。

又一說には、神功皇后樣が、三韓を御征伐になつて、御凱旋の途中、筑前の國、で御病氣にわか遊ばした時、或夜の事御夢に神童が來て、『これから南の方、三日路ばかりの處に、

三つの奇山峨々として天に聳えてゐますが、其西北の方の巖の麓に無双の温泉が御座りまする、それをお尋ね遊ばして、御入浴遊ばしませ』と申し上げたといふことで、直に大臣武内宿稱を從へて、御臨幸あらせられ、御入浴遊ばされたところが、日ならずして、御全快あらせられ、其効能の著しいのを御賞讃遊ばされ、斯くも無双の温泉だが、側に冷水の無いのを遺憾に思召され、御劍の御柄で、地を穿ち給ひしところ、きれいな清水が出たといふことである。後世之を神功水と稱へ、此地を柄崎の莊と名づけたといふことである。今温泉場の池の端にある神功水は即ちこれだといふことだ。

其後の浴草を尋ねると、舊地頭の祖先、河内國坂戸判官章明といへる人、源頼義、義家父子に從ひ、奥羽征伐の功があつたので章明に柄崎の莊を賜はつた。其子資茂、元永年間（今より凡そ八百年前）此地に來て、丸隈山の館に住し、保安年間今より凡そ七百八十年前、此浴場を改造してから遠近の旅客が、入浴に來るもの次第に多くなつたといふことである。

其後仁治年間（今より凡そ六百六十年前）領主後藤直明の時になつて、禪宗の祖宗聖一國師に歸依して、温泉附近の土地及び丸隈山の館を寄附されましたが、天正年間豐臣秀吉、

田制改革の時となつて、寺領を没収して、再び後藤家の所領とされた。

豊公朝鮮征伐の際、松浦郡名護屋に滞陣中、當温泉の掟を定め御朱印を後藤家信に賜はれた。其寫は左の如くである。

肥前國杵崎温泉

定條々

一、湯治上下時地下人非分義申懸猥之族於有之可爲曲事事。

一、湯入之輩宿賃人別五文宛毎日可出之事。

一、薪柴等可取之屋敷廻其外御用木者一切不可伐之事。

右條々若違犯之輩於有之者右地下人相拘可注進速可被加御成敗者也

天正二十年六月十八日　御朱印

享保年間長崎通路の變更によつて、長崎奉行、其他隣國の大小名、杵崎驛に宿泊するやうになつたので、新に三區を増築し、上等諸侯貴賓の用に充て、其次を正浴とし、家老用

人の浴場となし、其他を原湯として、皆磨石でこれを畳み、二十四間四面の館を建てたので、之れに改増築を施して今日に至つたのだ。

浴蓬萊泉歌　須藤梧山

蓬萊之山是仙郷、中有混混湧温湯、皆言浴之有神異、
使人心身忽健康、況復山水多奇麗、杵州第一好風光、
吾曾來浴春三月、李雪櫻雲競芬芳、冠童浴沂堪想像、
舞雩諷詠不可忘、今復重來秋冬際、櫨緋楓錦爛他霜、
樂天煖酒燃紅葉、樊川駐車愛夕陽、故人相逢寒温外、
先言浴泉洗詩腸、一浴塵垢全除去、再浴身心乍爽凉、
三浴如御風飛騰、四浴欲騎鶴翺翔、五浴六浴七八浴、
浴浴自覺壽無疆、秦皇求仙何迂闊、安期羨門跡茫々、
不知蓬萊在此地、武陵丹邱亦在傍、徐生三千童男女、
可知來此避虎狼、請看滿山奇態石、莫是當年歸化裝、
凡骨忽化仙骨得、到今猶傳不死方、朝昏吸取靈泉氣、

石面生光石髮苔、嗟乎人生百歲黄粱夢、何爲不下早浴此泉一

學仙郎上

※貴顯御入浴の年月

有栖川宮威仁親王殿下　明治二十四年四月二十五日
北白川宮能久親王殿下　仝　二十六年三月二日
小松宮彰仁親王殿下　仝　三十年十一月二十一日
小松宮妃殿下　仝　二十八年四月五日
華頂宮博恭王殿下　仝　三十四年六月二十九日
有栖川宮裕仁王殿下　仝　三十七年五月二十七日

市中の散歩

○温泉通り

まづ温泉場を出て見れば、温泉通りには、大厦高樓が見事に並んで居るが、これ等の多くは旅館であつて、此温泉の爲に生活して居るのである。東京屋、東洋館、角桝、春慶屋、三國屋、中桝、長崎屋、榮屋、三都屋、紙屋、浪花屋、朝日屋、吾妻屋、扇屋などの旅館は、設備も行き屆き、夜具、器具の清潔なること、食膳料理の叮嚀なること、些の遺憾もない、今では、外國人などが來ても、不自由は感せぬ特に外人に適する樣に室内の設備をやつて居る處も少くない。彼の裏手の小高い處に見えて居るヒルサイドホテルは全く外國人目あてだ。

○櫻山公園

温泉場を出てすぐ右に折れて、登つて行くと、此處は武雄温泉の附屬物とでも言つてよろしい、名高い櫻山の公園である。

入口には、高さ丈餘もある藥師如來の銅像を安置してある。其銘書きを讀んで見れば。

◎武雄温泉場本尊銅像藥師如來安置記

吾九州地方、温泉所在、亦大多矣。而其名稱、遠聞于全國中者、肥前武雄、亦其一也。聞昔、其地稱温泉組有志同心戮力、乃欲勸請本尊藥師如來銅像以永爲温泉鎮守於是乎、爾來于筑前博多依托磯野七平氏令鑄造其尊有數月方告竣工云、夫磯野氏者、博多古來豪族也、以鑄工爲業、往昔舊居之地、至今稱金屋街、足以其一端也。諸所佛像、及大小梵鐘等、磯野氏之所製不可勝數矣、余偶瞻仰其尊像妙相端嚴、種好其足、肉髻白毫宛似涌百寶光編明世間、伏惟藥師如來者、能使一切衆生衆病悉餘身心安樂、是即廣大慈悲之本願也、其詳本願經中豈可不恭敬供養乎、聊題蕪辭奬誘將來耳、是爲記、時明治三十五年十一月穀旦、

前永平傳法沙門七十一老寶山梵成撰、

朝浴靈泉夕門津。　醫王尊下養心身。

山明水紫武陵勝。　彷彿瑠璃世界春。

明治壬寅小春應囑　南岳杜多芳州。

毎年十一月十二日は、其れ祭で、相模の催しがあり、人出多く非常な賑である。其傍に一つの紀念碑が立つて居て。

其表には、篆書もて、うるはしく左の如く書いてある

武雄温泉紀念碑

從四位法學博士　鳩山和夫題

これは、武雄温泉の由來を後世に傳へんとする紀念碑で、其裏面の碑文を一讀すれば、温泉の由來を知ることが出來る。

武雄温泉沿革誌。

武雄自古、以温泉顯矣。相傳往古、有土人米守一日入山、見白鷺浴小溪狀如病、將行捕之、鷺驚飛投於南麓之小林、而其流温、米守異焉、究其源則、雲煙蓬々、有温泉湧沸於巖下、歸告之里人、後人以爲靈、名此地曰米守白鷺之所投曰鷺森林傍曰鷺田是口碑之所存。按日本風土記曰、縄向日代宮天皇巡狩、繫船於磐田杵村指示一島、詔曰、此地可稱戒歌島郡、戒歌島者杵島也。郡西有温泉湧出之巖、崖峻人跡所不通矣、神功皇后之自韓凱旋也、感夢寐、聖駕親臨、一浴而宿痾頓癒、衆初知温泉醫疾、皇后又曾求水、距温泉僅數武、小刀手鑿巖角則、冷水迸出、清冽醫渴、後呼曰神功水、今尚存焉。保安年間、改修浴室泉坎、天正中豊臣秀吉、定温泉之制、鈐朱印以授領主後藤家信、家信者鍋島男爵之祖、享保中再修增營、再來閱年瀰久、厦屋傾圮、亦無昔日之觀、明

治維新、各國交通之開也、温泉之殊効、普爲世所知、浴客之輻集年加多、縣令北島秀朝氏、屢促理新勸奬備至町民二百五十戸、奮然結社、稱曰温泉組醵金營之、縣令亦投千金以助費、明治八年七月起工、十二月告成、其肇工也、棟楹梁桷、板檻之腐黑撓折者、蓋死級甎之破缺者、岩石之假塞者、朽壤之淤洳者、乃撤乃刋乃闢乃埋、整治泉源、剔巖甃石、分泉坎爲數區、石筧縱横、每坎瀉源泉、坎底穿方孔、以疏汚濁、連石溝于坎、以導流垢、決去疏導得宜、日夜混々、新且潔、殺以大厦、樟之梁、檜之柱、高甍巨桷、延宇垂阿、治園囿、整庭砌、宏壯開豁、不存些舊觀、明治十七年更甃一坎、坎底四壁盡甃石、碁布黑白、黑者小城郡岸川之産、而得白於肥之後州八代郡、剗刋磨研、各方八寸、玲瓏如玉、今茲四月又更增營一坎、全坎珉甃黑白、翠紅燦然有章、瑩然成紋、皆是煉石、而堅牢奪天工者、意匠之周到、結搆之巧緻、何物如之、於是乎、靈泉之

効、與二輪奐之美一相待而無レ間レ然焉。嗚呼明治八年以還、竭レ力碎レ心、費二費巨萬一豈特爲三旅客怡二其情一、抑又永使下居民一自得中浴餘澤上、其功可レ謂レ偉矣、組長及役員、請二予誌温泉之浴革一以鐫レ石、

明治三十九年八月穀旦

掛　橋　經　規　撰　並　書、

だん〳〵登つて行くと、招魂碑がある。大弓場がある。其招魂碑の碑文は、

杵島郡徴兵戰死者招魂之碑

從二位勳一等伯爵山田顯義書。

明治中興、奥羽底定、放レ牛歸レ馬、與天下休息、大權之所レ復、蒼生再仰二天日一、是神祖神宗、雖下降二鑒使一之然、亦聖主賢相。所二相遇而致一之也。當二此時一乾綱始振、萬目未レ張廟堂之上、霄肝不二一而足一、內レ之則討二肥薩一、外レ之則征二臺灣一、是其事大者也。聖賢與神謀々猷咸、宜二天才之所レ指戡定一、不竟日而海陸軍人。尤與其力焉。死於二鋒鏑一者有レ

之。斃於瘴霧者一有レ之。朝廷既恤二其遺族一、又設二招魂之場一、以豐二其祀典一。其報功之厚。且重死者。而有知。其榮何如也。君臣相視手足復心以致有二今日昇平一。不足レ復怪也。今茲戊子。郡長二位君景暢。聚二其衆一而謀レ之曰。我郡之死二于國事一者。若干人。是吾人所二宣敬慕一而不レ可レ忘也。殊旌レ之而貽二于後世一。則何如。皆曰善矣。白二之於縣一。見レ允於レ是遠採二石於南肥一。舟運車輸。歲之十二月。致レ之郡治之下。乃募役鳩工琢磨。已成。將二建之白龍峰下一。余聞之窃語レ人曰。苟食土之毛者。孰不無二敵愾之心一。而況朝廷之於二吾民一厚且重。如彼則。所二以報之者一。亦必有レ道矣哉。君之此舉也。後之過二茲地一者。必有二觀レ焉而興起者一。使二誠舒一銘レ碑曰

維新之傑　齊力有レ餘　于夙于夜　不二敢啓居一　征南伐北
王事孔棘　殺レ身成レ仁　竹帛有レ光　万有千歲　終不レ可レ忘
劉二斯貞珉一　謹諗二後人一

平吉誠舒撰

佐賀縣書記官　渡並剪書

日露戰役紀念碑は、砲彈形に高く聳え、女子義勇團の紀念碑も此邊にある。

此邊を見廻すと、櫻、桃、楓、躑躅、其他の花卉を植え付けてあるから春になると、櫻桃梅李一時の春景賞すべく、爛熳たる花下、馥郁たる彩雲の上、詩歌管絃の音絶えず、誠に陽春の快遊場として絶好の地である。夏になると滿山の躑躅が紅紫黄白入れ交りて、金襴の天幕を張り出し、秋になると、紅葉青松の間に散点して客を招き、春夏秋冬誠に遊勝の地である。

只にそればかりでなく、其上の方に、數個の奇巖が、苔白く肩をいからし屹として中天に突き立つて居る。之を彼の詩歌管絃のかまびすしき時、眺めると、丁度君子が俗臭を脱して、超然として、端坐して居る樣に見える。誠に之れ武陵の一奇觀である。其狀白龍の天に昇るかの如くも見ゆるので、之を白龍峰と名づけたといふ事である。また之れを蓬萊山といふのは、繪などに畫いてある蓬萊山によく似て居るからでもあらう。

○蓬萊館。

櫻山公園の半腹にあつて、温泉組の所有で、紳士、雅客の集醵とか、休泊とか、娯樂とかの便に供するものである。

○柄崎神社及其祭日。

櫻山公園の園頭に小さいお社があるのを柄崎神社といふ。神武天皇、神功皇后、大巳貴命を合祀してある。毎年四月三日は大祭日で、時恰も櫻花爛熳たる彌生の時節だから遠近より郡集する參詣人至つて多い

○淀姫神社及其祭日の賑。

彼の藥師如來銅像の前を左に折れて行くと、茲に淀姫神社がある。毎年六月二十六日が大祭で、晩になると、神幸の式があり各町は競ふて諸種の裝飾、催しをなし、遠近よりの參詣者は、町を埋むるやうな賑ひである。

○白龍峰に登る道。

淀姫神社の南方より險しい石段を上つて行くと、白龍峰の絶頂に登ることが出來る。今一つの道は、櫻山公園の日露戰役紀念碑(砲彈碑)の前を通りて登つて行くことも出來る。

○白龍峰頭の眺望。

頂上には、虚空藏菩薩を安置し、其他山中到る處に、天神社、金比羅社、觀世音、地藏尊、稻荷祠などがあつて參詣者が常に絶ゆることがない。

頂上より眺望すれば、市街は勿論、此邊一帶の景は、一眸中に集まつて見ゐ、眼下には白亞粉壁の市街、人馬の往來織るが如く、九鐵上り下りの滊車は、白き煙、黑き煙を吐いて、時ならぬ、雲霞を眼下に棚引かせ、南には、綠滴る三船の山峙ち、身は巖頭に立つも白雲の上に在るが如く、心氣忽ち爽快を覺ゐず快哉を呼ぶ。眞に他の都邑で多く見ることの出來ぬ眺めで、武雄に來た者は、必ず一遊を試みなければ、武雄を談ずることは出來ないといつてもよろしい。

さあここで地圖をひろげて、實際に就き武雄町の事を談るであらう。

○武雄町。

武雄町は、佐賀縣杵島郡に屬し、肥前半島の略々中央に位し、九州鐵道は東西に通過し、祐德軌道は南に走り、特設電話は去る四十一年四月開通して市中の通話は素より遠く門司博多、熊本、佐賀、佐世保、長崎其他重要の地に通話することが出來て、交通至つて便に將

來益々發展すべき餘地を有して居る、其戸數人口は、佐賀縣にて五六位に位し、戸數約千五百、人口凡そ壹萬、實は、現今武雄町と稱するは、政治上の區劃にして今眼中に映する市街の名稱ではない。此市街は古來柄崎と稱したのであるが、今は多くは武雄と稱す。山水風光を愛するの雅客は、また之れを武陵ともいふ。して此市街のみの人口は約四千、戸數約七百位である。

今見下す通り、武雄市街は、丁度西南より北東にキの字形をなして流れて櫻町、宮の町、本町（一名温泉通り又は湯町）十間堀、新町、松原通り、國道筋、停車場通りなどの名稱區劃がある。

○娯樂場、劇場。

櫻山公園には、大弓場其他種々の設けがあり。尙ほ市中には玉突場の設備もある。

劇場は、松原通りの西側、國道筋と十間堀との中間にあつて、蓬萊座といふ、歌舞伎、新派演劇、活動寫眞、講談、演藝、二輪歌、浪花節、其他いろ〳〵の興行が、かはる〳〵一年中、殆んど絶ゑ間もない位だ。

○蓬萊町。

遊廓を以て名高き蓬萊町は、温泉場のすぐ北側にあつて、大厦高樓櫓を連ね、花月、文明樓、新玉、小櫻樓など有名である。實に、四時歌吹の海、不夜の城とでもいふべく、塵俗界中の別天地だ。料理店の如きは、市内到る處にあつて、其數拾數軒、その中、大島屋、小櫻屋最も有名だ。

名所古蹟

○武雄神社。

武雄神社は、松原通りを距ること、南七丁許の處、御船山の東の麓にある。社殿は、山に據り、高く石垣を築いて、古松老杉參差たる裡にあつて、攝社、繪馬堂などは、其左右に並んで居る。

祭神は、仲哀天皇、神功皇后、應神天皇を祭り、武雄心命、武内宿禰を合祀してあつて

天下の奇劑

收血丸

SHIUKETSUGAN

天下の奇劑●打身妙藥

當家二百五十余年來の家傳

登錄

商標

杵島郡橋村
潮見大宮司　毛利收血丸本舗

似せ物退治のため商標を登錄し帝國政府の保護をうく

藥價表
參拾錢
拾五錢
五錢

効能顯著

▲打身一切　●鬱血　▲腰脚氣　▲脚氣

▲產後古血の滯り▲のぼせ●ほねやみ●りんびやう

●牛馬にけられた人
●高きより落ちた人
●腰の痛む人
●のぼせきのある人
●勞働家●力士
●擊劍家●柔道家
●石工●工夫●農家
●炭坑業者
●必備藥なり

武雄蓬萊町

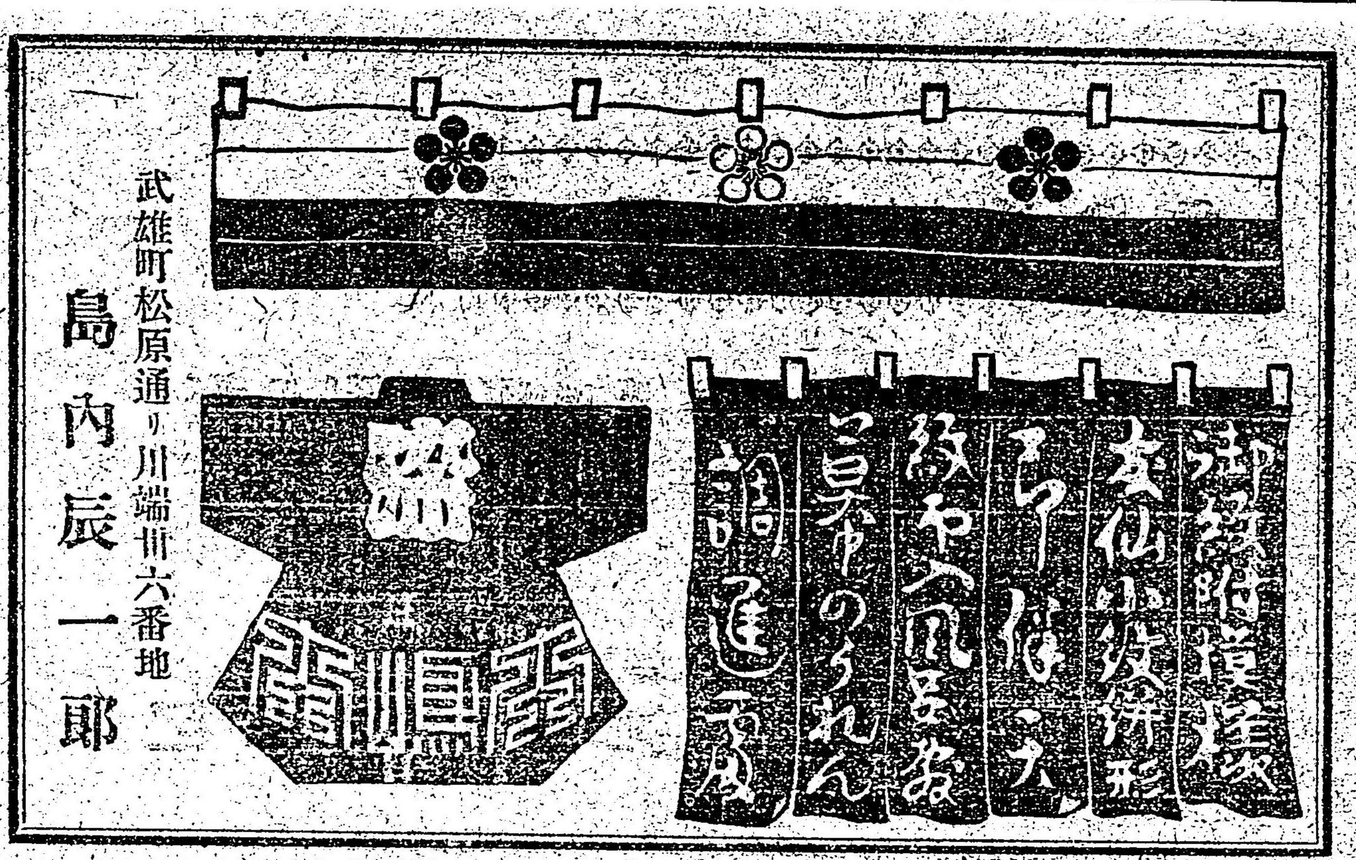
貸座敷 善小櫻樓

特電話三二番

神妙藥王湯本舗

ひるはらくだし、吐瀉暴瀉、赤痢、白痢、
産前、産後の下し一切大効有事神の如し

團扇製造元
古着並質商
武雄新町
宮原眞左衛門


御婦人様
女仙丸
ちりはつ
紅わかもの
三年のうれん
御通ひ
武雄町松原通り川端廿六番地
島内辰一郎

鐵道貨物取扱所
製氷元賣捌所
九州線武雄驛前
㊀日本遞送株式會社取引店
㊁宮原運輸本店
電話十八番

吳服太物
洋端物商

確実
正札附

武雄町温泉通り

松松屋商店

聖武天皇の天平元年今を去ること凡そ千二百年前の建立であるさうだ。

文治二年三月十日に、源頼朝此社の平氏追討御祈禱を神妙に思つて下したる教書、及び其他綸旨、教帖などの古き寶物がある。此社は、初め御船山の南岳に鎮座しあつたのを、後ちに此地に遷したといふことだが、年久しうして其沿革はよくわからない。觀應元年足利直冬西肥征伐の時、當社に詣でて、丹青を畫き、文永、弘安の間には、蒙古の來寇に際し、朝廷及將軍の祈禱を捧げて神驗があつたといふことだ。建武年間に、一色道猷は足利尊氏の命をうけ、今川了俊は、足利義滿の命をうけて共に田園を献じ、後藤、菊地、澁江、千葉の諸豪族各々私田を寄附したゝめ、社領一時は、甚だ豐富であつたが、時世の變遷につれて、減損し、僅かに後藤家の尊崇により、祭祀を修めて居た。

毎年舊一月十七日には、歩射の祭といふのがあり、九月二十三日には、神幸式、流鏑馬等の式があつて甚だ賑かである。

○八疊敷の大楠

武雄神社の後方、凡そ一丁許の所に有名な一の大樟がある。枝葉は、樹の老いたるにも

似ず、繁茂して四邊を掩ひ、幹心空洞をなして、人の出入自在に、其中には、八疊を敷かれる。

○御船山

附　鍋島家の歴史

萠黄綠に青の木の葉が、鬱々として繁つて居る中から、苔白き奇態な巖がその中よりちよい〳〵と頭を出し、猛虎のほゆるが如く、或は人の佇立せるが如く見にて居る山が、武雄停車場の南四五丁ばかりの處に見にて居るだろう。之が御船山だ。

往昔神功皇后御巡幸の際、御船を繫ぎ給ひし所だから御船山といふさうである。又此山を一名城山といふのは、此山の麓に武雄城があつたからだ。抑々此武雄城といふのは如何なる歴史を有するか暫くこれに就いて話さう。

藤原鎌足公の後に、利仁といふ人があつて、其六世の孫を則經といひ、其子を章明といつた。河内國坂戸の地頭となつて、永承年中に、源頼義に從ひ、安倍頼時を討つた。此合戦に頼義の兵に七勇士が居つた。章明は實に其七勇士の一人であつた。後に内舍人となりて、宮中に出入りすることを許された。そして累年の戰功によつて、杵島郡柄崎の莊即ち今の武雄を賜ふたので此邊の地頭となつた。元永年中今を去ること凡そ九百年前、其子資茂、富岡村に住んで居たが、後御船山の麓に城を構へた久壽元年、其裔貴明此地方の監使として、源爲朝が凶逆を防ぎ寛元二年に其裔後藤次、閑院殿の築垣を作り、建治二年其裔氏明は、外寇に備へんが爲筑前博多に石垣を築き、また戰功もあつたといふことである。

春慶樓清集分韻　　綿貫雲石

春入二武陵一詩思多。　桃花深處鳥聲和。
仙游今日何愉快。　百尺樓臺抱瑟過。

建武元年には、杵島郡福母、松浦郡出浦、瀬の浦の地を賜はり延元二年には、其裔朝明、基肆郡神邊の地頭となつた。

永祿六年には、其裔紀明（資茂より十七世）大村氏の子、貴明を養ふ、貴明亦平戸の松浦氏の子、惟明を養子とした。處が父子相合はず、天正三年（三百三十年前）遂に貴明は、

宮野城に兵を擧げ、惟明を攻めたから、惟明は遂に遁げてしまつた。それで貴明は更に龍造寺隆信の子、家信を養子とし、其女槌市を配して、悉く自分の領地を家信に讓り、自分は家士をつれて、隆信に屬した。それで家信は家を繼ぎ龍造寺の臣となつた。

處が隆信もまた貴明の子家均を養ひ、それに領地を與へたが、其裔多久家の臣となり多久を氏として、今に存して居る。

天正八年隆信槌市に筑前早良郡の田廿八町を與へ、天正十八年には、豐臣氏家信に、杵島郡西松浦郡、小城郡の地一万九千七百餘石を與へて、龍造寺に臣として、軍役すべしといふ証狀を下した。丁度此年には、豐臣氏の令を以て、龍造寺氏の領内には七城を殘して他は皆破毀されたが、吾武雄は、此災厄には遭はなかつた。

慶長五年德川氏は、龍造寺氏に命じて、筑後を討たせたが（即ち柳河陣）家信の子茂綱は從軍して、戰功があつた。此年隆信の子政家、茂綱に氏龍造寺を與へたが、間もなく氏を武雄と改めた。處が後又藩主は鍋島の氏を與へた。

明治維新の際、朝廷は、茂綱の子茂昌の勇武なるを聞き、藩主に命じて、東北の賊を討たしめられました、其戰功によりて明治三十年華族に列し男爵を賜はりました。

○萩の尾の御茶屋

萩の尾は御船山の西南麓にあるが、舊武雄邑主鍋嶋男爵家の別莊である。仰げば御船山の奇峰が天を貫くばかりに突き立つて居て、其南端の崖は、まるで刀で斷ち切つた樣に、板壁のやうに突き立ちて、丁度松の繪を畫いた、大きな屏風でも立てた樣にして居る。其下は即ち萩の尾の御茶屋である。池を堀りめぐらし、其側に一小亭を構へてあつて、多くの奇岩、怪石、或は人の佇立して居るが如く見ゆ、或は猛獸の伏せるが如く、或は劍戟の如く、或は、砲丸の如く、鋭き角をなしたものもあれば、聞く頭を突き出したものもあつて、其間に、櫻桃梅李の花樹と、青く綠の雫を滴らして居る松の樹とが、交互に其岩の間を縫つて芳林を

萩尾　毛利雲水

山亭老叟臥繙レ書。　水上藤花漫弄レ魚。
萩尾幽溪漢畫似。　危巖欲レ落尺千餘。

なし、夏になると藤花は藤棚の上より五六尺もある樣な手を垂れて、池の鯉を嬲ぶるさま、天然の奇景を利用したる、實に他鄕に多く見ることの出來ない庭園だ。

○函の水養魚地

萩の尾の下方にあつて、水清く地靜かに、御船山は眼前に横はつて見にて居る。他に臨みて小亭を設けてあるから、夏日の納涼、秋夜の觀月には最も妙だ。

○蓬萊山廣福寺

温泉場のすぐ北側の西の山手にある臨濟宗の寺で、本尊は、地藏菩薩である。今より凡そ六百六十年前、四條天皇の仁治三年春武雄城主後藤直明、唐より歸朝して天下に名を成したる彼の高僧聖一國師の德を聞き此に招聘して自分の別莊を寺院となし、祈禱所に定めたのが、此寺

遊廣福寺　草場船山

山明依翠竹。石路入青風。僧病新涼後。客來微雨中。國師存古迹。寶繪聚名公。何處木犀發。香飄滿院風。

の起原だ。其後後宇多天皇御勅号を下し、此寺に『護國』の二字を賜ひしより、廣福護國禪寺と稱へた。其御勅額は今尙存して居る。其當時は、大伽藍があつて其規模廣大なものであつたが後、屢々兵燹に罹つたので、今は、唯方丈の一部だけあるのだが、尙ほ一の巨刹たるを失はない。當寺は元來、木山といふものは無く獨立の寺であつたが、近世に至り南禪寺に屬して居る。庫裏は天正年間の建築で、客殿は嘉永年間改築されたもの、佛殿は慶長年間の建築で頗る優雅である。殿中に釋迦佛像を安置し、四天王之を環衛してゐる。文祿の初め三韓征伐の時、伊達、畠山の諸將此地の温泉に來り浴し、當寺の佛殿が、火災後再建せられずしてあるのを遺憾とし、資財を喜捨して建てたといふことである。觀音堂は寛文年間の建立で、聖觀音を安置してある。寺は、境内高燥にして、氣清く翠巒の裡、幽邃閑雅な處で、寶物として、元明諸大家の古

遊廣福寺　德永含翁

寺在蓬萊最上層。高僧心似玉壺氷。子昂山水東坡竹。不負禪門廣福稱。

書幅を藏してある。浴後一遊を試むべき地だ。

○ 普門山圓應寺。

武雄停車場の北に當つて、一つの高い山が丁度屋根の形をなしてゐるのが見ゐる。此山を柏岳、又は圓應寺山といふ。其半腹に、大きな石門が見ゐてゐるが、其上の方に、圓應寺といふ寺がある。曹洞宗の寺で、本尊は聖德太子の御作りになつた十一面觀世音で、小兒病の祈願に靈驗があるといつて、信仰者が多い、擬して觀世音の子女となり、無病息災を祈るものが年々幾百人の多きに及ぶといふ事。

永正十四年今を去ること三百九十年前領主後藤伯耆守純明の開基せられた所で、開山は丁然惠超和尚である。彼の禪門の中興開祖として有名なる宗胡禪師（月舟）は當山八世華嶽和尚の門に出でたといふことだ。其生家は原田氏ださうで、其末裔は、今尚ほ武雄町にある。

慶應二年諸堂を改築し、明治二十五年に更にまた廻廊、庫裡を再建し、寺の境内は六千餘坪あつて法堂、位牌堂、庫裡、東司、廻廊、山門、書院、土藏等が其内に並んでゐる。

武雄邑主鍋島男爵家累代の墳墓は此處にある。

○ 柏姫の墓陵。

當時の舊記によると、仁壽帝の二皇子、惟喬、惟仁位を爭ひ遊ばしたから、淸和天皇の母妹柏姫惟仁親王の爲めに、西海に降り彥山、香椎、高良の三社に祈り給ひしとき病にわ罹り遊ばして、溫泉に御入浴になつて、此寺に僑居遊ばすこと三四年で、遂になくなられたゆゑ、其秘藏の金塊、及寶鏡を合せ、共に之を葬むつた、それで里人此山を柏山、又は鏡山といふさうだ。廟を山腹に建て、雲居といふ。昔は勅使下向の事あり、神事祭禮を行はせられたといふ事である。

○ 西福寺。

新町の北にある淨土宗の寺で智恩院の末寺である。慶長年間成松新左工門の開基に係り、開山は西譽上人で、本尊は阿彌陀如來である。當寺には大佛木像の高さ一丈八尺もあるのと、信州善光寺の一光三尊佛の分身を安置してあるので、參詣者が多い。

○ 圓滿寺。

新町を距る二三丁下西山にある日蓮宗の寺だ、本尊は日蓮上人天正年間の建立である。日蓮宗本門寺派に屬して居る。當寺には、日重上人の分骨を安置しあるので參詣者が多い。

○正法寺。

宮野町にあつて眞宗本派本願寺に屬し、本尊は阿彌陀如來、文祿元年の開基にして、開基は善明といひ後藤家信の臣井手走太兵衛光定といふものだ。慶長年間宮野より引き起して再建したのである。此町を宮野町といふのも此邊にいはれがあるらしい。

○身教館。

身教館といふのは今は無い。今を去ること百八十年前享保年間に創立になつたので、天明より文政天保の間になつて、領主鍋島茂順、茂義文武を奬勵したので、士民大に奮起し、研學をさ〳〵怠りなく、爲に文武の道大に振興し、栗原心齋、久間休兵衛、北川齋、一ノ瀬庄助、齋藤芸庵、久間彌次右工門、清水駿平、飯盛嘉彌太、武雄佐門、松尾致孝、立野元定等の學士を輩出した。今其重なる儒者の傳記を調べて見やう。

△清水龍門。

名は豐、字は士薛、通稱は駿平、龍門と號した。幼にして弘道館に入り、穎敏の稱あり、後に筑前龜井昭陽の門に學ぶこと十年、氏の家は世々醫を以て邑主に仕へたが、氏の代となりて、遂に業をかへ文學を以て、主に仕へた。文政年中故ありて罪を得た、それで時の友人はしきりに本藩に仕へよと勸めたが、氏は一向之を聞かなかつた。暫くして罪も許されたので、大に鄕人の學問を奬勵したので、文學大に振興した。人となり方正敦厚にして、好んで經典を誦し、博雜を好まず、親に事へてよく孝、よく三年の喪を執られた。彼の碩學龜井昭陽先生は、蓼莪衍義といふのを書いて氏に贈り、其孝を稱せられたといふことだ、嘉永五年になくなられた。享年は五十八であつた。

△立野元定。

元定は其諱で、字を麟鄕といひ、桂山又夢庵と号し、幼にして頴悟、七歳の時既に詩を賦した。古學を清水龍門に學び、又草場佩川の門に學び、毛詩尙書に據り、專ら龜井昭陽の說を守り文章をよくし、李王、韓柳の流を好んで居た。邑主氏を學館の敎授と爲し、傍ら

邑の政事に與らせた。戊辰の役には、邑主に從つて其軍務をたすけ、凱旋の後また舊職に任じ、廢藩となつてからは、家に居て塾生の教養に怠りなかつた。後武雄中學校教諭に任せられた。氏常に風俗の輕薄を慨し子弟に教ふるに忠信篤敬を以てした。在職中病に罹り明治十四年四月十八日なくなられた。時に年六十であつた。

武雄附近の名勝古跡

△溝の上鑛泉。（池内の堤）

馬鐵永島驛より南四丁、池内の堤の風光明眉なる周圍を廻はつて行くと鑛泉がある。リヨーマチス、脚氣、濕疹、頑疹、腫物、ひせん、やけどなどに其効顯著である。遠近よりの湯治客常に絶ゆる時なし。

△潮見神社。

一等旅館

東洋館

特電十一番

温泉ノ泉源タル蓬萊山ヲ前面ニ控ヘ眺望ノ絶雅ナルト室内空氣ノ流通良ク光線ノ明ルキハ弊館ノ特色トスル處ナリ

待遇ハ懇切ヲ寶トシ宿料ハ五十錢以上壹圓五十錢迄ヲ普通トス料理ハ專ラ衛生ニ注意ス

和洋両式共設備完全

武雄本町

旅館 三都屋

蓬萊山ヲ望ミ四季ノ眺ノ最モ佳

親切叮嚀ヲ旨トス

電話三七番

御料理

會席仕出し

肥前國武雄新町

大野料亭

電話三十六番

抑此神經浸ハ積年千試万驗ニ由テ發明シタル補益强壯收斂鎮痙調血ノ奏効顯著ナル「銹劑」中最卓絶偉効アル良劑也

强壯 血調

神經浸

壹瓶 定價三十錢

主治効能

▲神經衰弱(注解)きつかれこゝろにとろへ○ものことをわすれ○びようごのうみつかれに○よし▲全身虚脱(注解)からだつかれ○すぢほねをあらわす等によし▲血液虚乏(注解)びようごあほさめにしてちいろなきものによし▲子宮出血(注解)ほうろうながち▲胃膀胱虚性出血(注解)びようごれよびりんびやうごのなかち等によし▲衂血はなち咯血はいけつ胃血とけつ敗血病(注解)はかんてんけいの類▲氣失昏冒(注解)めまい○たちくらみの類▲依ト毘垤兒及併私的里(注解)かんちのみち○きぶんうつしてちれたくふさぎいろ〳〵のやまいをひきたこすものによし▲虚勞(注解)やせたところへろうがい

等ニ内用シテ拔群ノ强壯藥ニシテ收斂調血ノ性ヲ有ス故ニ豫メ出血下痢寢汗ヲ防グベキ症ニ於テ一種貴要ノ良劑也

本家 藥劑師 佐賀縣武雄町柄崎 一ノ瀨良輔謹製

しらぬ火の國に知らぬ人なき柄崎温泉の傍らなる神功水だるやゝ給ひしの皇后三韓より凱旋し玉のち此地に巡幸ましく彼の靈水を發見ふ折自ら御劍の小柄をもつて鑿ちたまふ處の麗水なり今に之を神功水と稱し得是れ地名を柄崎と呼所以にして大雨大早を問はず不減不増特に無色透明ねり往古よ

皇國美名

神功水

眼病一切の良劑

定價五錢

本家 藥劑師 佐賀縣武雄町柄崎 一ノ瀬良輔謹製

土人病眼に此神功水を滴して爽快を得る者往々鮮しとせず仍て此水を採酌し尚數種の良藥を加へ精製して目藥と爲し以て患者に經驗するや既に久し實に水名に背かざる絶世の方劑なるに依り先年内務省へ願ひ免許を蒙り普く衆庶の眼疾を救はむとす伏して請ふ大方の諸君試みて神功の著しきを用ひて知り玉はん事を

祐德軌道、上野驛より二三丁。青松古杉の鬱々たるもの、流れ清き潮見川に沿ふてゐる、其間を逍遙して上宮に達すれば、眺望甚だ佳、潮見川に釣を垂るるもの遠近より郡集す。鯉は此川の名産で長さ二尺以上のものあり。打身の藥收血丸は大宮司より出づ。

上宮には、伊弉諾、伊弉冊尊、橘諸兄を合祀し、中宮には、神功皇后、武内宿禰、橘奈良麿、橘公業を合祀し、下宮には澁江、中村、牛島の三靈を合祀してある。

後鳥羽帝の建久年中再興されたれ社で、橘諸兄十七世の孫橘公業、源頼朝に事へて肥前國永島莊、豐前國副田莊、肥後國久米郷、大隅國種ヶ島、伊豫國宇和島の地を賜はりしゆゑ、公業一族を率ゐて、永島の莊に來り、潮見山の頂上に城を構へ、伊弉諾、伊弉冊尊の社に就いて、更に大祖諸兄公を合祀し、橘奈良麿を尊崇して居た、後二條帝の時公業を中宮に合祀した其澁江、中村、牛島といふのは、其末裔である。公業は澁江を以て

泊于毛利氏宅歸途口占　　德永含翁

節逢重五是梅天。　暴漲淼茫潮見川。
魚腹免來何所想。　屈原沈沒幾千年。

氏とし一時九州に威名を轟かし、明徳中其末裔修理太夫公治、今川と戰ひ大に之を敗りしが澁河滿頼伐て之を平げ、永綠の初公治の孫豐後守公師此に據り有馬の兵を防ぐ、六年冬有馬義直來り攻め、公師は肥後に逃れた。肥後阿蘇神社の神官澁江氏は即ち其末裔である。

（西肥古蹟詠）

一時雄長望風降。東澁遂併西澁江。一戰何圖等策竭。
捲旗伏甲走隣邦。
里の名のしほみてはひく世の樣を知らでや人の爭ひにけり。

△燒米の池。

北方停車場を東に距る凡そ二丁。縣下第一の大池。池の中央浮島の上、綠樹の陰に、陰見するは、高良玉垂の祠、左手の絶壁によれるは、海童神社である。眺望紫海をのみ、其觀頗る佳、若し夫れ儲水綠を掠めてたたふれば、靜影玉を沈め、天光一碧の壯觀を呈す、寛政十二年白石三万石の稻田に灌漑するため、藩主の命じて穿たしめたるもの、若し之をして東都の邊にあらしめば、遊客絶にざる事であらう。

○北方附近の炭坑。

汽車の乘客は、武雄北方驛の中程で北方にあたり、數多の煙突から黑煙の盛に升るのを見るであらう。之れは皆炭坑で此邊から毎日採堀する採炭高は、百二十万斤以上で、其炭質も、九州中屈指の良炭である。採炭見物もまた一興だ。

杵島炭坑　停車場の西方十五丁、田島信夫氏の經營するところ、第一、第二、第四の三坑がある。

北方炭坑　停車場の西方二十丁、近時採炭高減少せしも、また再興を見るに至るであらう。

赤阪福母炭坑　停車場の東八丁、赤阪福母炭坑と共に高取伊好氏の經營せしところ、福母は、既に採炭減少せしも赤阪はまだ盛に採掘して居る。

○杉岳山大聖寺。

住吉村にある眞言宗の寺だが、北方武雄間の北方にあたつて富士山見たやうな山がある。

之を八幡岳と云ひ一帶の巖岳其中腹をとりまいているからまた八卷山ともいふ（其巖には貝殼の附着せるあり以て往時の海岸なりしを想ふべし）其東方の山上に人家の散在するあたりのところにある。和銅年中僧空海（弘法大師）の開山で、本尊は行基の作りし不動明王で、鎮守は大杉木で其木の洞中に山王を勸請してある。

寶物には有名なる唐鏡信國の作りし明王劍などがある。豐太閤名護屋滯陣中、九州名刀劍を集め縱覽せられた時、此劍も取寄せになつたが、旬夜殿內に光を放ち、しきりに異樣の物音がするから豐公大に驚き「末代まで明王の重寶たるべし」と奉書を添へ返納されたといふことだ。毎年正月二十八日は、大法會で遠近より詣づる老若男女のために。非常の雜沓をきはむ。

○和泉式部出生の地

祐德馬鉄西山驛に下車し東山といふ處を通り杵島山を越ゆる山路を福泉寺越といふ。上方に產社といつて、和泉式部の生地なりと傳ふ。石佛を安置し、其臺石に銘を刻んである。

此地往昔号三二社一、或曰和泉式部產二此地一、故曰二產社一焉、雖レ然

式部緣起等福泉寺本堂後產、邑里耆者等口碑區區不レ給、何是非矣、近來自二道右之間一、出於一石像一、其形容甚古焉、然則古代神祇浮圖之際、庶安二奉之地一歟、仍邑里男女老若戮レ志、彫刻當尊奉安二路傍一、蓋新求二自他平等現世安穩後世善趣一云

寛政二庚戌年夏四月結制日　　稗沙門東洲記

此處を通過して下れば、福泉寺といふに達す、本尊は藥師如來である。元は眞言密場で聖一國師の弟子鉄牛禪師再興して、禪刹としたのだ。和泉式部はまた此れ寺の裏に生れたともいふ。

肥陽社蹟集に曰く

或時佛殿の後に、赤子の啼聲しければ、衆徒怪み行て之を見るに、牝鹿伏して、赤子に乳をのませ居たり。折節藤津郡鹽田（五町田ともいふ）と云所に大黑丸某と云者、夫婦の夢に如來來て告げて曰く、汝年比、子を設けん事を祈る、只今福泉寺に汝が祈る娘あり、早く行つて之を取り、もり育つべしと夢覺め夫婦の者不思議の

思なし、彼寺に行て見るに、果して然り、乃ち法印に所望し、彼娘を抱て我家に歸り、彼寺の名によせて和泉式部と名付待りける、式部九歳の時、都へ上りしが其まゝ留り終に歸らず、或年故郷錦浦（此邊の地名を錦浦といふ）を懐ひ出て、部を詠て當寺に送り待りけりとて里人の語りける其部に。

故郷に歸る衣の色くちて、錦のうらや杵島なるらん

式部の足は指二本にて、能く鹿の爪に似て居たから、自ら之を恥ぢ裳を足に穿いて居たといふことで、足袋の起りはじめださうである、といひ傳ふ。

鎮西要略に曰く。

正歴二年、壬辰歌女和泉式部掩粧、父曰二資高一藤氏也、從四位任二肥前守一、其父曰二高遠一号二岡崎三位太宰大貳一也、是小野宮相國實頼公長孫也、式部生二肥前之杵島邑一以爲二和泉守橘道貞一妻曰一衛、或曰式部多田滿仲之妾也。

○杵島山。

日本三歌垣山の一つで、攝津の歌垣山、常陸の筑波山と並び稱せらる。武雄の東南にあたつて南北に亘れる一帶の山、之を杵島山といふ。舊幕時代には、鍋島氏の狩獵場なりしため、多くの猪鹿棲息せしが、今は隻影片蹄も見ぬず。山中古跡多し、水堂、福泉寺、産社等はその主なるもの、

肥前風土記曰、

杵島縣南二里有二一孤山一從レ坤指レ艮三峰相連。是名曰二杵島一。坤者曰二比古神一、中者曰二比賣神一、艮者曰二御子神一（一名軍神勳則兵興矣）鄕閭士女。提酒抱琴。每歳春秋携レ手登。望樂飲歌。舞曲尽而歸。

歌詞曰

阿羅禮布禮、耆資摩加多麻壇、嵯峨紫彌苦、區嵯刀理我泥底、伊母我堤塢力褸

是杵島曲也

仙覺万葉集卷三、

祐徳馬鉄永島驛に下車し、東杵島山の麓、橘村役場の側を通り立石越を登つて行く事が出來る。

○水堂觀音。

日輪山水堂といひ、須古村字嘉瀬川の山腹にあつて、本尊は、行基菩薩の彫刻になる長さ三尺三寸の正觀世音である。毎年旧四月十五日寅の刻より七月十五日未刻に至るまで靈水出づ、其百日の間善男善女の來り詣づるもの甚だ多く山中も爲に都會と變ず、祖先の爲に水祭りとて、靈水を汲むもの多し。

靈水畧縁起に曰く。

人皇四十五代聖武天皇の御代、一人の獵夫ありき。或日此山に登り白鹿を射殺せしに鹿は金色を放て消に失せ、鏃の立ちし處は、石の觀音の腹なり。獵夫殺生の積罪を懺悔し、僧となり、名を法弓と改め、安福寺といふ寺を建て、念佛三昧の行者となれり其後人皇八十代高倉院御腦あり、或夜九州肥前國日輪山中に靈水あり之を服すれば、忽ち平癒すとの御靈夢あり、仍て其時の領主小松内大臣に勅命ありて、之を搜索せしに杵島山中に日輪山の額を掲げてて岩下に靈水出でければ、則ち之を汲み捧げ給へば御平癒あり、此事深く御感有て七堂伽藍六十六坊を御建立あり、同向院に於て常行念佛繁榮の所、其比天下乱れ爭乱の世となり本寺兵燹に罹りしも、信者の詣づる尠からず、寶永四年本堂其他を再建し、年を逐ふて、修飾し頗る美麗なる寺となれり。

○黒髪山。

九鉄三間坂驛より凡そ拾六町ばかりの處に宮野といふ宿がある其西端より險路を登ること約一里許で古跡名勝を探ることが出來る。大智院の古跡、黒髪神社、龍門など有名である。

△黒髪山大智院。

和銅年中僧空海(弘法大師)の開基で、西光寺と稱し、本尊は藥師如來である。中古に至り領主後藤氏知行百石を寄附し後二十五石を增し祈禱寺とし、本山嵯峨大覺寺より大智院の寺號を下附し西肥眞言宗の法頭とした。明治に至り知行沒收されたるも、今尚末寺二十四ヶ寺あるといふことだ、其下方に當り左の碑がある。

獨一法界僧正覺遍(表面)　延寶元年建之(側面)

和漢三才圖會に曰く

大智院在二黑髮山一寺在二五十町山上一有二大磐一名二頭頭岩一大五丈餘、往昔有二大蛇一纏二此岩一七匝、每所棲蛇池、于レ今有レ之、鎮西八郎爲朝射殺レ之、而以來人安堵、

△黑髮神社。

崇神天皇十六年の創建で、伊奘冊尊、速玉男尊、事解男尊を祀る。社背に突起せる大磐を天童岩といひ、往昔此山中の白川の池に大蛇住み、時に出でて此巖を纏ふ、源爲朝射て之を殺せりといひ傳ふ。

筑紫なる黑髮山の白川は、水のかゝみとなてほしにけん　（古歌）

△龍門。

黑髮、廣瀨兩山の間にあつて、幅二十間、高さ三十間許の大巖、聳立して削るが如く、磐根は、空洞にして數百人を容れられる洞前は石川にして溪水奔流して、岩に激し、水玉を飛ばし風景實に幽壯である。殊に山上の展望四方數十里遠く玄海、五島沖近く筑紫海を望

むを得て壯絶快絶。

雨中遊二龍門一　西坡岳

荷笠荷裝何處登、　山程滂沛雨如レ繩、　嶄岩皆是高千尺、
雲霧更添奇一厨、　乱水横飛因二石激一、　閑花倒發伴二崖崩一、
腰間長笛休レ吹去、　恐是龍門龍勃興。

△上野。

陶磁器製造場

祐德馬鉄上野に下車すれば、甕、土管、壺等の製造現場を見ることが出來る、土管は日本全國は勿論、韓、清等に輸出し其産額も年々增加し、將來益々發達の見込あり。實に本縣の特産物である。

△志田西山。

祐德馬鉄西山驛に下車すれば、現場を見物することが出來る。此地は陶磁器製造場にして、

火鉢、皿、鉢、どんぶりなど製造盛なり。其品質有田燒と比すべくもあらねど、其丈夫と實用とに適するは或は遙に其上にあるだらう。之れ志田燒といつて有名なる所以である。其產額亦頗る多し。近來職工養成所を設立し。職工の養成に勉めて居るから、將來は益々發達するであらう。

△有田

武雄より西國道三里餘、九鐵中樽驛或は有田驛に下車すべし。古來陶磁器の製造盛にして亦精巧なること、全國に冠たり。山水の風光また愛すべく、陶山神社に登れば有田町全景を眺むべし。工業學校、及び香蘭社などは是非見物すべき處である。

△鹽田公園

祐德軌道鹽田驛に下車すべし。西方の丘陵に一の公園あり、園内四季の花卉を植ゑ、前方は遠く有明海を望み、鹽田川を上下する直帆、片帆も見て其眺望甚だ佳なり。公園の西側に有名なる常在寺あり。和銅元年僧行基の開基せるところ、唐の青龍寺惠果阿闍梨の

彫刻した有名の大黑天の像を安置してある。此大黑天は、數代の間宮中に安置しありしに元暦元年後鳥羽院の病に惱み遊ばされし時高成紹法印勅命を奉じて昇殿祈禱の効により賜はつたものださうである。鹽田町には、又本能寺といつて有名な大寺院もある。

△祐德稻荷神社

祐德軌道（馬鉄ともいふ）は、武雄より祐德院まで、五里の間通じて居る、其最終端門前に下車して、所謂門前の市街を通過し、大華表を通れば境内に達す。境内の廣さ一町五反餘り、本社は山腹にあつて、斷崖絶壁數十丈、登るに數十百級の石段がある。麓に遙拜殿社務所があつて、神苑には數羽の白鶴が遊んで居る。芽出度事には、明治三十八年此鶴が巢籠りして一羽の雛鶴を生んだ、瑞穗となづけ健然に生長して居る、其後毎年巢籠をして今は五羽となつた。靈池には幾多の鯉浮び、溪流水清く、潺々として流れ、風景實に幽邃を極めて居る。其山緒を談れば鹿島舊藩主鍋島直朝の夫人花山院萬子媛の勸請されたので初め萬子媛の直朝に嫁せらるゝや、父左大臣花山院定好公、別れに臨んで邸内に安置しあつた稻荷社を分けて祀ることを申し付け、銅の鏡を與へこれを御神体として祠らせられた

是れが倉稻魂の神ださうである。

夫人度々子女を失ひ、老いて敬神の念厚く、寶祚の万歳、天下の泰平を祈らんために、貞享の年（今を去ること二百三十年前）古枝村の山上、幽邃なところを撰んで、其に社を建て、規模を宏大にし、自分の家を境内に建て、朝夕神を敬して餘念なかつたが、遂に此處でなくなられた。後ち石壁神社として祀つたのである。夫人は、關白鷹司信尚公の養女で實は、左大臣花山院定好公の女、母は鷹司信尚公の女であつた、幼少の時後陽成天皇第三の皇女准后清子内親王自ら養ふて、子とせられたといふ事である。

社殿其他の建物は、代々の鹿島藩主が修理を加へられたので、石門は寛政五年佐賀藩主鍋島治茂の寄附で、古賀精里先生の撰まれた銘書がある。其他大小の石燈籠、石の玉垣、石段等は、遠近の士民崇敬のあまり寄進したのである。

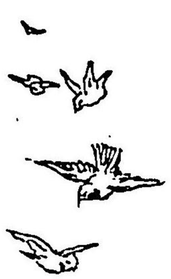
二月初午、三月八日の玉替へ、十一月八日の通夜の如きは、參詣者を以て埋められ、年中參詣人の多き關西地方稀に見るところである。

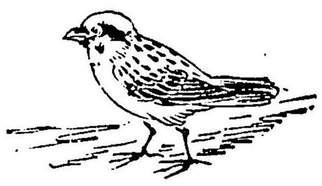
吉浦神社

馬鉄五丁田驛は、吉浦社の馬場前にある。社は舊蓮池藩祖鍋島直澄侯を祀つてあつて、古松老杉鬱々と繁り、幽邃閑雅の地だ三月五日の大祭は甚だ賑で遠近よりの參詣者非常に多い。

松蔭神社

南鹿島高津原舊城址にあつて、舊鹿島藩主忠茂公以下歴世の藩主を合祀してある。前に有明海を控へ、古松天を蔭ひ、眺望絶佳、特に附近一帶吉野櫻を植ゑ付け、幾千株の櫻樹は林をなし春は、爛熳として咲き乱れ、雲の如く霞の如く、見る所皆花、實に九州第一の觀櫻場である。





武雄より各地に至る道程及其地の名勝

△鉄道によるもの（哩を以て示す）

○北方…三哩八鎖、稻主神社西北十丁、燒米の池東二丁、炭坑、水堂南二里、
○三間坂…四、九
○有田…九、一　工業學校、陶器製造場、香、蘭社
○早岐…一六、四　瀨戸、
○大村…三八、八　歩兵四大聯隊北十丁、大村神社西南六丁、田ノ平温泉東三丁、瀧東北半里、
○長崎…六五、五
○山口…八、四
○牛津…一一、八　櫻岡公園北一里、清水瀧北一里半、
○久保田…一三、六
○佐賀…一七、六　松原神社、神野御茶屋、五十五聯隊、
○神埼…二三、三　櫛田神社南六丁、仁比山山王社北一里、

○鳥栖…三三、一
○久留米…三七、五　篠山神社、水天宮、高良神社、四十八聯隊工兵十八大隊十八師團、
○熊本…八八、九　熊本城、花岡山、六師團、
○二日市…四二、〇　太宰府天滿宮、武藏温泉、宇美八幡、
○博多…五一、三
○門司…九八、五　二十四聯隊、東公園、日蓮銅像、龜山天皇銅像、西公園千代松原、
○小城…一六、八　櫻岡公園、清水ノ瀧ハ附近ニアリ。
○唐津…四〇、四　舞鶴城、鏡山、虹ノ松原、
○伊万里…一七、二
○佐世保…二一、九
○東京新橋…八〇三、〇
○靜岡…六八五、〇
○名古屋…五六九、六
○京都…四七四、九
○大坂…四四八、一
○廣島…二三八、〇

△人力車によるもの

○嬉野……南三里十二丁、有名なる温泉あり、山水明眉、
○萩の尾……南十二丁
○成瀬……東一里半
○眞手野……西北二里二十六町
○川古……北二里二十一丁

馬鐵停留所と其名勝（かつこ内には武雄よりの乘車賃を示す）

高橋（五錢）……商業盛にして、有明海に通ずる舟揖の便あり。
甘久（二錢）……武雄名松三本松、
馬場先（三錢）……武雄神社西二丁
永島（五錢）……薄ノ上鑛泉西南五丁……池内堤西一丁……水堂觀音、
上野（八錢）……潮見神社西二丁……打血藥名高し……鯉釣り場……陶器製造場。

楢崎（十錢）……北方方面よりの乘車起点、
西山（十二錢）……陶器製造所……水音觀音……稻佐公園……三社、
志田原（十四錢）……馬鉄馬換へ所……軌道會社出張所、
下久間（十六錢）
塩田（十八錢）……塩田公園……本能寺……常在寺、
五町田（二十錢）……吉浦神社……嬉野行き西二里……八天神社、
五ノ宮（二十三錢）……五ノ宮神社
北鹿島（二十五錢）……百貫行き乘り換へ、
支線 井手（二十七錢）……北鹿島ヨリ二錢、
百貫（二十八錢）……北鹿島ヨリ三錢……百貫ノ渡シ（塩田川ノ下流）
鹿島（二十八錢）……郡役所……銀行……警察……藤津郡第一ノ都會、人口約三千五百……
八本木（三十錢）……濱町……漁場……有明海東半里……七浦多良糸岐分点、
門前（三十二錢）……祐德稲荷神社、

武雄町内の諸官衙學校會社其他の所在

杵島郡役所……町の東北端小楠にあり。
武雄區裁判所……新町にあり。
武雄警察署……宮の町にあり。
武雄税務署……櫻町にあり。
武雄郵便局……松原通り國道筋にあり。
湯町郵便局……温泉通りにあり。
佐賀縣支金庫……松原通りにあり。
合名會社兄弟銀行……十間堀にあり。
甘久共同株式會社……停車場通りにあり。
武雄町役場……松原通りにあり。
武雄高等女學校……松原通りにあり。生徒數二百。
武雄尋常高等小學校……櫻町にあり兒童數凡千五百。
武雄療病院……櫻町にあり。
祐德軌道株式會社出張所……停車場ノ東側にあり。
農事試驗場……郡役所の前方にあり。
武德會支部……櫻町舊郡役所の跡。

吳服反物
新物小袖商

武雄宮野町

池田屋

六神丹

◉主治効能

胃病、食シヨウハカクラン、水アタリ、腹セキ一切ノ病ニ効能最モ著シ禁物川魚油ゲ

◉用法

大人ハ一日三回白湯又ハ水ニテ服用ス小兒滿十五歳以下大人ノ半量滿七歳以下三分ノ一ヲ服用スベシ

製劑本家 杵島郡武雄町

樋口圓助

温泉ニ最モ接近シ

武雄温泉通リ

二等旅館 浪花屋

野田ト

諸新聞賣捌種目

◎佐賀新聞 一ケ月 金三十八錢
◎福岡日々新聞 仝 金四十錢
◎大阪毎日新聞 仝 金四十五錢
◎大阪新報 仝 金三十五錢
◎東京二六新聞 仝 金三十五錢
◎報知新聞 仝 金三十八錢
◎長崎新報 仝 金三十五錢
◎九州毎日新聞 仝 金三十錢
◎萬朝報 仝 金三十錢
◎國民新聞 仝 金三十五錢

右確實迅速ニ無休配達仕候

武雄松原國道通リ

諸新聞取次所 廣告取次所 喜多敬太郎

優等醬油

佐賀市長瀨町

釀造元 高岸武平

杵島郡武雄宮野町

發賣元 小柳商店

履物製造
卸小賣

商號松尾
武雄町温泉通り

商標

松尾作市商店

御注文御好ニ應ス

確實正札附
和洋雜貨
萬小間物商

杵島郡武雄本町

池田商店

辯護士　名古谷磯太郎
電話一四番

事務所　佐賀縣武雄町字新町
佐賀市中ノ小路松屋

武雄温泉名産
大日本物産京都陳列大會
協賛品許會名譽銅牌受領
太白百合羊羹
武雄温泉通り
發明製造元祖　山口佐平商店

御料理　本店　小櫻屋

武雄蓬萊町　電話十二番

貸座敷　支店　一力樓

武雄蓬萊町

貸座敷　花月

特設電話二十三番

美術活版印刷

諸帳簿、雑誌、株券、レッテル、名刺表物

新案特許 上美流美術裁縫裙形

縣下特約販賣所

特色
- 裙形ノ眞ハ白ボール紙ニシテ強キ事限リナシ
- 裙形ノ上ニ尺度ヲ現ハシアレバ非常ニ便利ナリ

陸軍御用達

野中活版印刷所

佐賀市材木町百六拾番地

（電話一三四番）

明治四十三年四月十五日印刷
明治四十三年四月二十五日發行

定價金貳拾錢

著作兼發行者　毛利龍一　佐賀縣杵島郡橘村大字永島二百三十六番地

印刷所　野中美術印刷所　佐賀縣佐賀市大字材木町百六十番地

發行所　開明堂　米倉書店　佐賀縣杵島郡武雄本町溫泉通

不許複製

第二回博覽會四回佐賀長崎兩縣聯合清酒品評會等優勝

其他進歩及有功金銀牌多數受領

25
916

西陛下御用品トシテ

宮内省御買上ノ光榮ヲ蒙ル

佐賀縣武雄町

醸造元　田代元一本店

電話五番　振替貯金堂大阪一四九八番

活版
石版
帳簿
一式
請
御用達

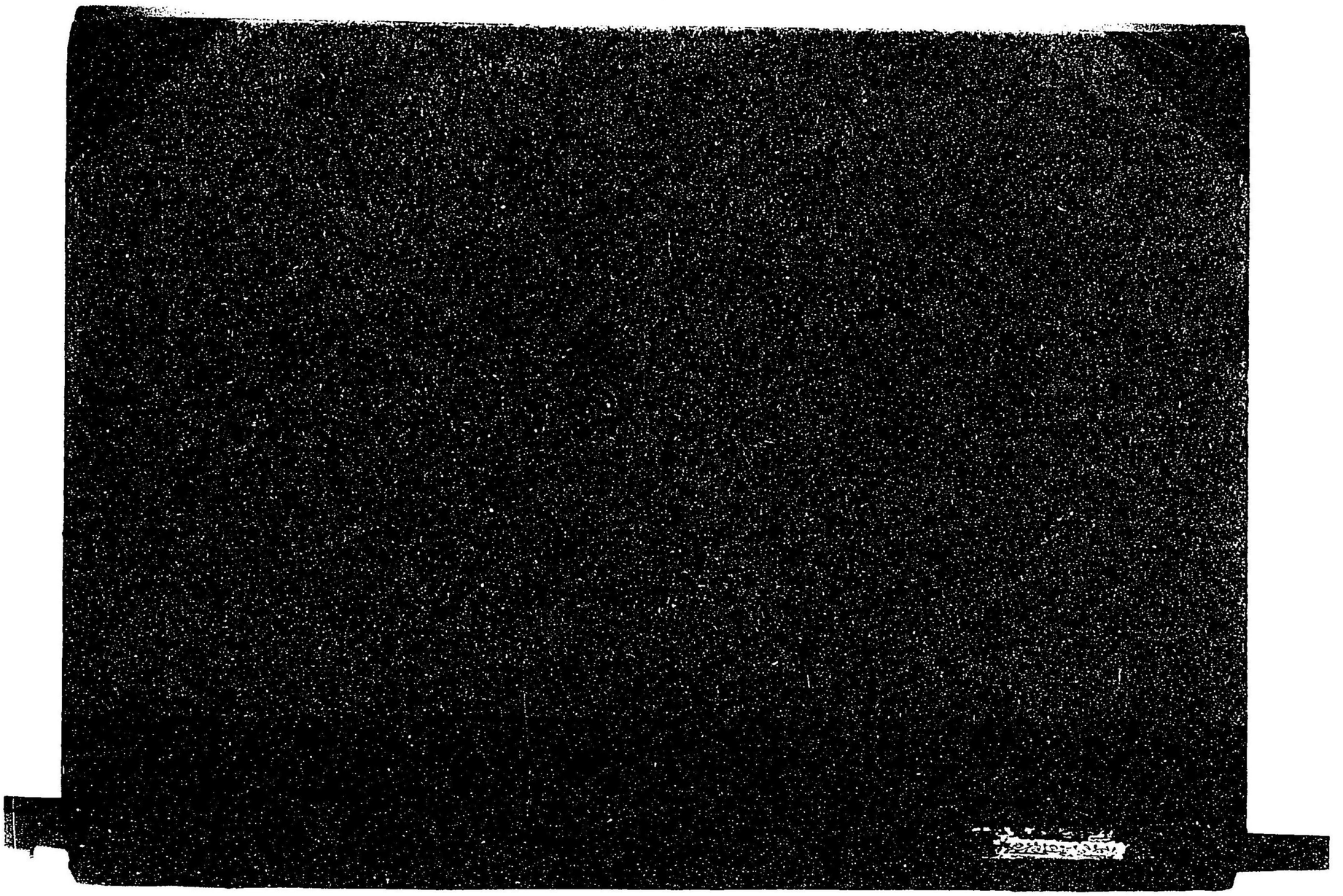
佐世保陸軍御用

井上武陵館

肥前武雄町

25
916

8.3.14

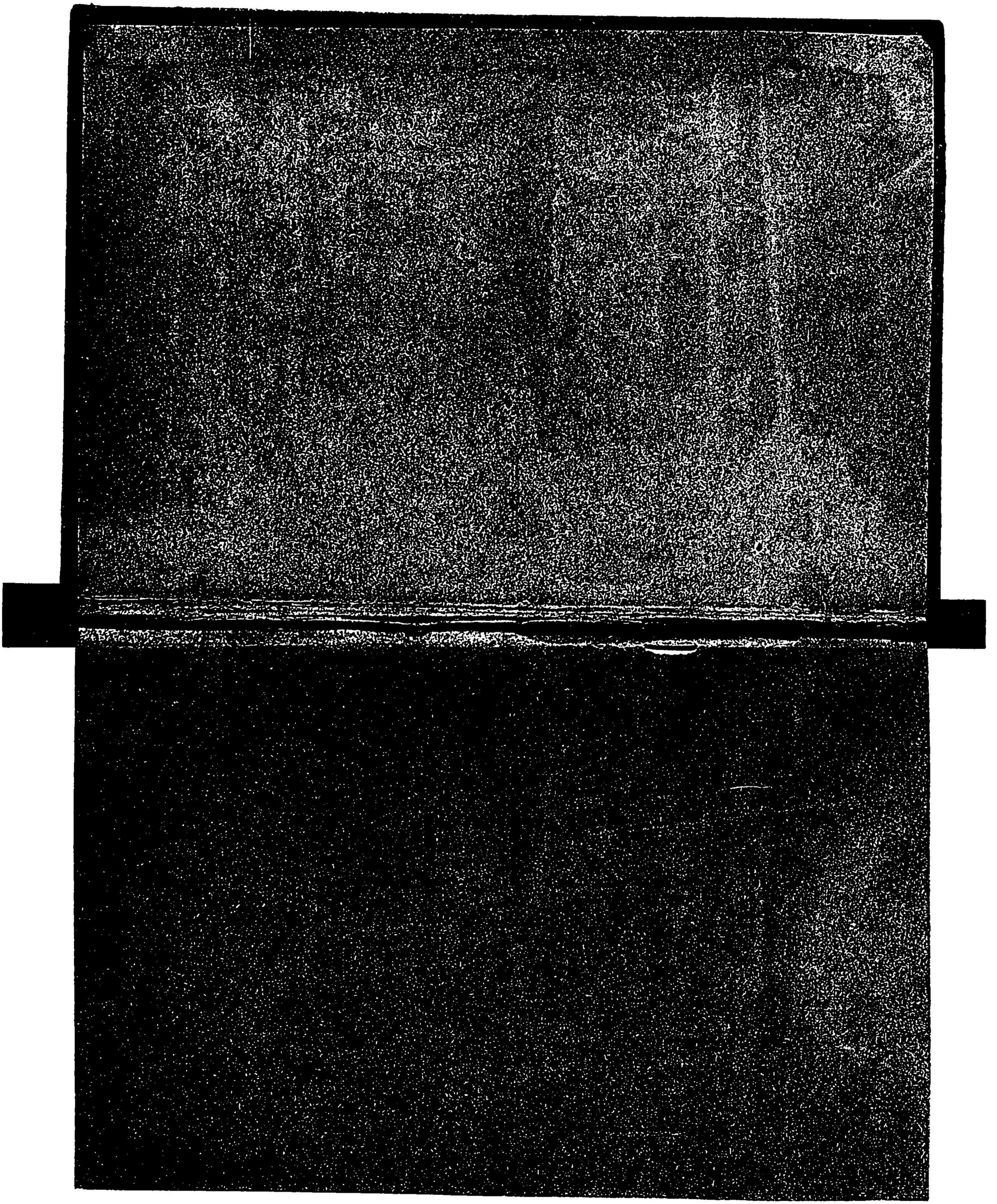


026229-000-0

25-916

武雄遊覧之友

毛利 龍一／著

M43

ADC-3954